CG-BARFX

取扱説明書

PN Y613-03100-02 Rev.B

本書の読みかた

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	CG-BARFX を指します。
「　」ー「　」ー「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉

Windows® .... Microsoft® Windows® Operating system
Windows® XP .... Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および
Microsoft® Windows® XP Professional operating system
Windows® 2000 ... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
Windows® NT4.0 .. Microsoft® Windows® NT Workstation operating system
Windows® Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system
Windows® 98SE.... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system
Windows® 98 .... Microsoft® Windows® 98 operating system
Windows® 95 .... Microsoft® Windows® 95 operating system
※本書では Windows® 98 と Windows® 98SE を含めて「Windows 98」と表記しています。

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

Mac OS について

本製品はMac OSでユーティリティー設定を行うことはできません。Mac OSでご利用になる場合は、一度 Windows に接続してユーティリティー設定を行ってから Mac OS に接続してください。

目　次

##

使用環境を確認する

チェック1

プロバイダーとの契約、工事は完了していますか？

本製品を使ってインターネットに接続するには、フレッツ･ADSL、B フレッツなどの回線を使ったインターネット接続サービスへの加入が必要です。また、プロバイダーによる工事が完了するまでは、インターネットへの接続はできません。

チェック2

モデムやケーブルはそろっていますか？

回線と接続するには、回線の種類に応じたモデムなどが必要になります。また、回線への接続が正しくできているか、確認してください。確認方法については、ご契約のプロバイダーにお問い合せください。
本製品とパソコンを接続するには、LANケーブルが必要になります。LANケーブルを購入される場合は、カテゴリー５のLANケーブル（ストレートタイプ）のものをご購入ください。

チェック3

設定に必要な情報は準備できていますか？

本製品の設定を行う際に、各サービス別に以下の情報が必要です。プロバイダーとの契約時に、以下のような情報が提供されますので契約書類などで確認し、メモしておいてください。不明な場合はご契約のプロバイダーにお問い合わせください。

PPPoE 接続の場合 （フレッツ・ADSL など）	DHCP を利用する場合 （Yahoo! BB・CATV など）	固定 IP アドレスで接続する場合 （固定 IP サービス）
・ユーザー名 ・パスワード ・サービス名（プロバイダーから指定された場合のみ） ・DNS サーバーの IP アドレス（プロバイダーから指定された場合のみ）	・コンピューター名（プロバイダーから指定された場合のみ） ・DNS サーバーの IP アドレス（プロバイダーから指定された場合のみ）	・WAN 側の IP アドレス ・サブネットマスク ・ゲートウェイアドレス ・DNSサーバーのIPアドレス

上記の名称は、プロバイダーによって異なる場合があります。
例：ユーザー名→アカウント、ユーザー ID、ログイン ID など
ご不明な点は、ご契約のプロバイダーに確認してください。

チェック4

パソコンの環境はそろっていますか？

LAN コネクター（10BASE-T/100BASE-TX ポート）	LAN コネクターがない場合は、ご利用のパソコンに合わせて次のいずれかの方法で、LAN コネクターを増設してください。増設方法については、パソコン、またはLANボード、LANカード、LANアダプターの取扱説明書をご覧ください。 ・ 拡張スロット（PCI バスまたは ISA バス）に LAN ボードを取り付ける ・ PC カードスロットに LAN カードを取り付ける ・ USB コネクターに LAN アダプターを取り付ける
OS	本製品は、Windows XP/2000/Me/98/95/NT 4.0、UNIX、Linux など、TCP/IP をサポートする OS に対応しています。
Web ブラウザー	本製品の設定は、Webブラウザー（フレームに対応しているもの）で行います。パソコンに Microsoft Internet Explorer 5.5 以降がインストールされているか、確認してください。 **※設定は Windows をご使用ください。**

本製品の機能

本製品には、次のような機能があります。

・フレッツ・ADSL/B フレッツ対応
・WAN ポートは 10BASE-T/100BASE-TX 対応
・NAT/IP マスカレード機能で、複数のパソコンから同時にインターネット接続可能
・2 つのルーティング方式（スタティック、RIP）に対応
・DHCP クライアント / サーバー機能で簡単導入
・セットアップウィザードによる簡単インターネット接続
・簡単 Web 設定
・パソコンデータベースによるユーザー管理が可能
・詳細なアクセス制限が可能
・E-Mail 機能にてログ情報を送信可能
・NTP に対応
・DDNS（ダイナミック DNS）対応
・Web 管理ツールによりファームウェアのアップグレードが可能
・UPnP、NetMeeting、MSN Messenger、Windows Messenger などに対応

パソコンのネットワーク設定をしよう

本製品を利用してインターネット接続ができるように、ご使用になるパソコンのネットワーク設定を行います。
次の内容を確認してください（確認と設定の方法は、OS の種類など、ご使用になるパソコンの環境により異なります）。

・ネットワークアダプタの設定
・TCP/IP の設定

複数のパソコンをインターネットに接続させる場合、すべてのパソコンでネットワーク設定を行う必要があります。

■ Windows XP で利用するときは

この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンして行ってください。ユーザー権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

● ネットワークアダプタの状態を確認する
パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 ［スタート］－「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。
2 「ハードウェア」タブを表示して「デバイスマネージャ」をクリックします。
3 「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

※ 実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

● TCP/IP プロトコルを確認する

・パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」をクリックします。

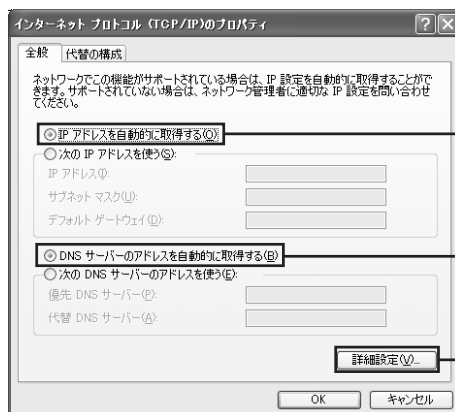
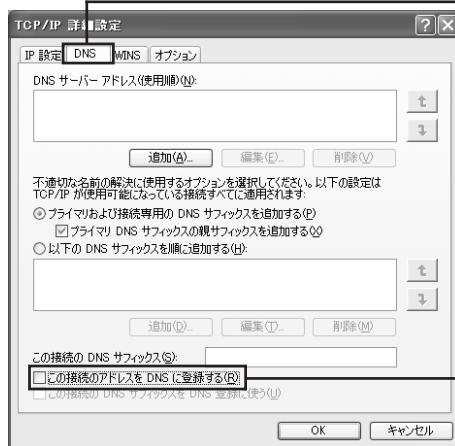
2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4 「ローカル エリア接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブで「インターネット プロトコル（TCP/IP）」にチェックが入っていることを確認します。

6 「インターネット プロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。

7 「全般」タブにある「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］ボタンをクリックします。

8　「TCP/IP 詳細設定」画面で「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

注意

・プロバイダーからドメイン名も指定されている場合

「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

※ DNS 設定例

9　［OK］ボタンをクリックします。

10「インターネット プロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で、［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で、［閉じる］ボタンをクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示されるので、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

13 次に「Web ブラウザーの設定をしよう」（P.19）に進みます。

■Windows 2000 で利用するときは

この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザー名でログインして行ってください。ユーザー権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

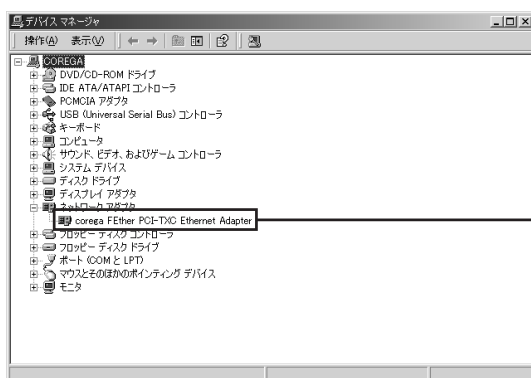
● ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「ハードウェア」タブを選択し、[デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。

3 一覧の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ

※ 実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー・機種によって異なります。

×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

● TCP/IP プロトコルを確認する

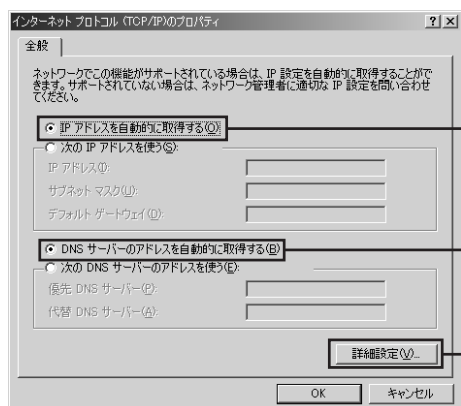
1 [スタート] ー「設定」ー「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

3　「インターネットプロトコル（TCP/IP)」にチェックが入っていることを確認します。

「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が一覧にない場合は、「TCP/IPをインストールする」(P.14)をご覧ください。

4　「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。

5　「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、[詳細設定］ボタンをクリックします。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面で「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

・プロバイダーからドメイン名も指定されている場合
「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

7 ［OK］ボタンをクリックします。

8 「インターネット プロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で［OK］ボタンをクリックします。

9 「ローカル エリア接続のプロパティ」画面で［OK］ボタンをクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示されるので、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

11 次に「Web ブラウザーの設定をしよう」（P.19）に進みます。

● TCP/IP をインストールする

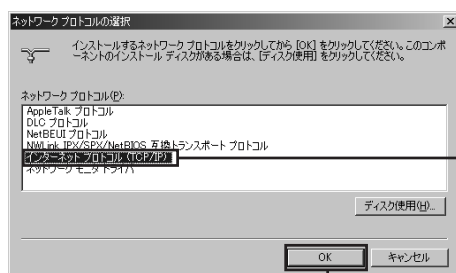
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 [スタート] －「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で [インストール]ボタン をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］ボタンをクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］ボタンをクリックします。

6 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.12～）からの設定を行ってください。

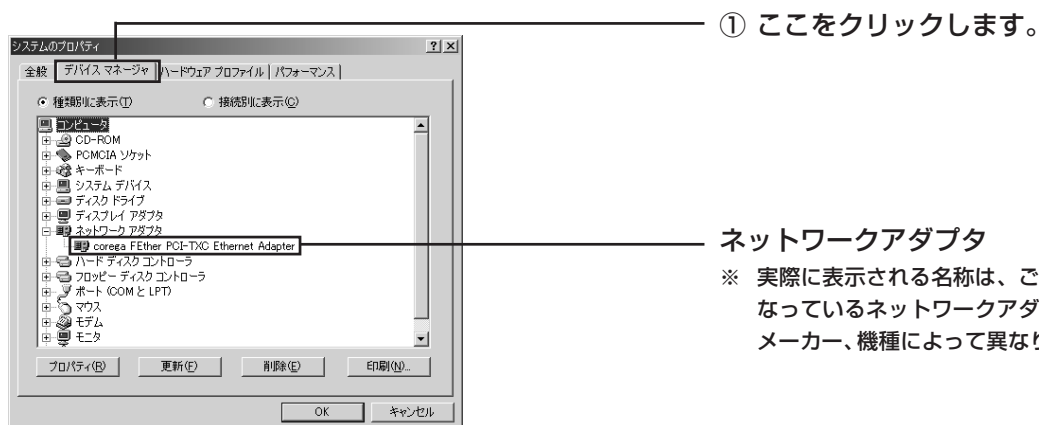
■Windows Me/98/95で利用するときは

● ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

・×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

・「Microsoft仮想プライベートネットワークアダプタ」「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本製品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

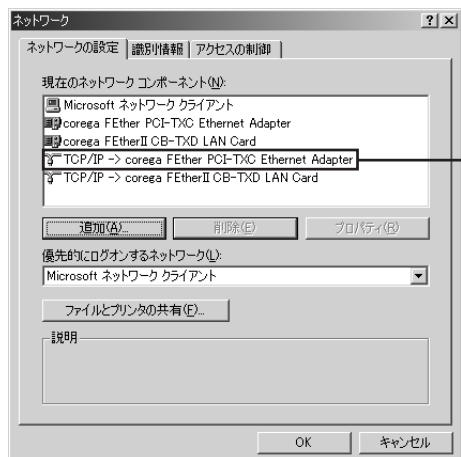
● TCP/IPプロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用しています。Windows 98/95をご使用の場合も手順は同様です。

1 ［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

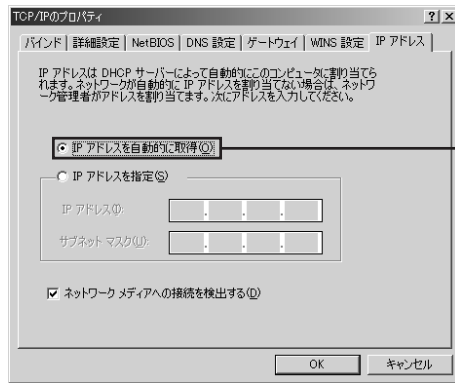
Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」アイコンが表示されます。

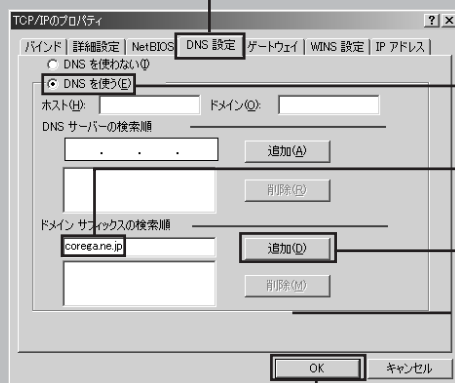
2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

3 「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP −> XXXXX（ネットワークアダプタ名)」が表示されていることを確認します。

「TCP/IP −> XXXXX（ネットワークアダプタ名)」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.18）をご覧ください。

4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP −> XXXXX（ネットワークアダプタ名)」を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。

「TCP/IP −> XXXXX（ネットワークアダプタ名)」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタ名を選択します。

5 「IP アドレス」タブで「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

・プロバイダーからドメイン名も指定されている場合

「DNS 設定」タブで「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］ボタンをクリックしてください。

※ DNS 設定例

6 ［OK］ボタンをクリックします。

7 「ネットワーク」画面の［OK］ボタンをクリックします。

WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合はドライブにWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。

8 再起動を促すメッセージが表示されるので、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

9 次に「Web ブラウザーの設定をしよう」(P.19) に進みます。

● TCP/IP をインストールする

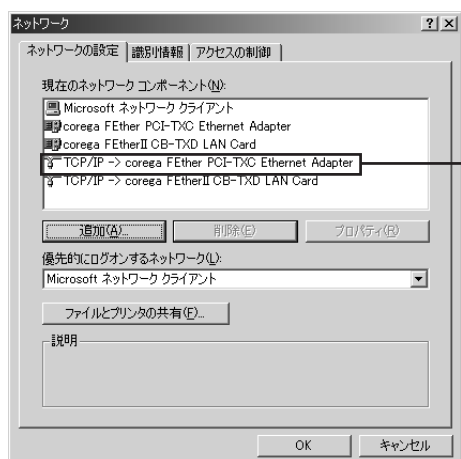
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「ネットワーク」の画面で、［追加］ボタンをクリックします。

2 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、［追加］ボタンをクリックします。

3 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択します。

4 「OK」ボタンをクリックします。

5 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP ―＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が追加されていることを確かめます。

6 ［OK］ボタンをクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されるので、再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.16～）からの設定を行ってください。

Web ブラウザーの設定をしよう

本製品を利用できるように、Web ブラウザーの設定を行います。ここでは、Internet Explorer 6.0 の場合の設定方法を例に説明しています。その他の Web ブラウザーの場合は、Web ブラウザーのヘルプなどをご覧ください。

1　Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。

2　「インターネットオプション」画面が表示されたら「接続」タブをクリックします。

3　「LAN の設定」をクリックします。

4　「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面で「設定を自動的に検出する」「自動構成スクリプトを使用する」「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。

5　[OK] ボタンをクリックします。

6　「インターネットオプション」画面で [OK] ボタンをクリックします。

7　次に「パソコンと本製品を接続しよう」（次ページ）に進みます。

パソコンと本製品を接続しよう

■本製品を設置する場所について

・本製品に同梱されている「はじめにお読みください」および「クイック設定ガイド」をお読みになり、使用時の注意等についてご確認ください。
・本製品の側面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。
・本製品を安定させて設置する場所が見つからない場合は、付属の縦置きスタンドを本製品に取り付けることで、本製品を立てて設置できます。取り付けかたは、本製品に同梱されている「はじめにお読みください」をご覧ください。

●設置に適した場所
・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

●設置に適さない場所
・直射日光が当たる場所
・暖房器具の近くなど
・高温多湿でホコリの多い場所
・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

■本製品の電源を入れるには

●本製品の電源の取りかた

本製品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプターを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプターやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

●本製品の電源の入れかた／切りかた

本製品背面のDCジャックにACアダプターのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプターの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

・本製品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

・ACアダプターの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。

■パソコン、モデムと本製品を接続する

本製品とモデム、パソコンなどネットワーク接続する機器はLANケーブルで接続してください。

●推奨ケーブルについて

すべてのケーブルが機器間を接続するのに適切な長さであることを確認します。本製品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。また、ケーブルは、カテゴリー5のLANケーブル（ストレートタイプ）を使用してください。

1 本製品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2 本製品背面のLANポートにLANケーブルを接続します。（❶）

3 LANケーブルのもう一方をパソコンのLANポートに接続します。（❷）

4 本製品背面のWANポートに付属のLANケーブルを接続します。（❸）

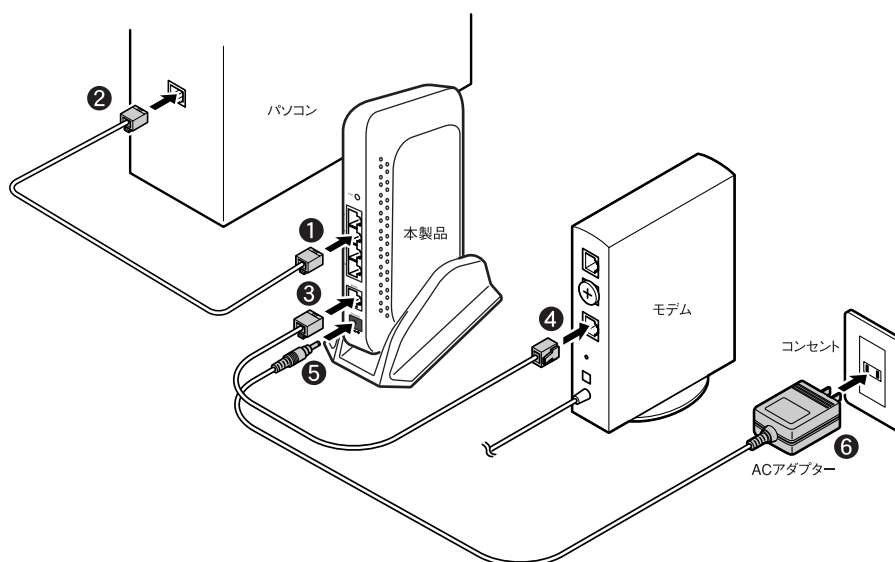
5 モデムまたは回線終端装置のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一方を接続します。（❹）

6 モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。

7 本製品背面のDCジャックに専用ACアダプターを接続します。（❺）

8 本製品の専用ACアダプターをコンセントに接続し、本製品の電源を入れます。（❻）本製品前面のPower、WAN側の100M、Link/Actの各LEDが点滅していることを確認します。

9 パソコンの電源を入れます。

10 本製品前面の、ケーブルを接続したLAN側のポートのLink/Act LEDが点灯していることを確認します。

本製品の設定をしよう

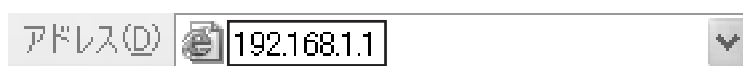
パソコンから本製品を使ってインターネットに接続できるように本製品の設定を行います。本製品の設定はWebブラウザーで行います。本製品に接続されているパソコンのうち、1台から設定作業を行ってください。Webブラウザーには Internet Explorer 5.5 以降をご利用ください。これ以外のWebブラウザーでは、正常にセットアップが行えない場合があります。
推奨ブラウザーについては、P.6の「チェック4」をご覧ください。

■簡単な接続方法

インターネットに接続できるように最小限の設定をします。インターネットへの接続方式はご契約されたプロバイダーによって異なります。P.6の「チェック3」でメモした情報を準備してください。

設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアーウォールソフトなどのセキュリティーソフトが起動していると、本製品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティーソフトを停止させて本製品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティーソフトの停止、稼働の方法は、セキュリティーソフトの取扱説明書をご覧ください。

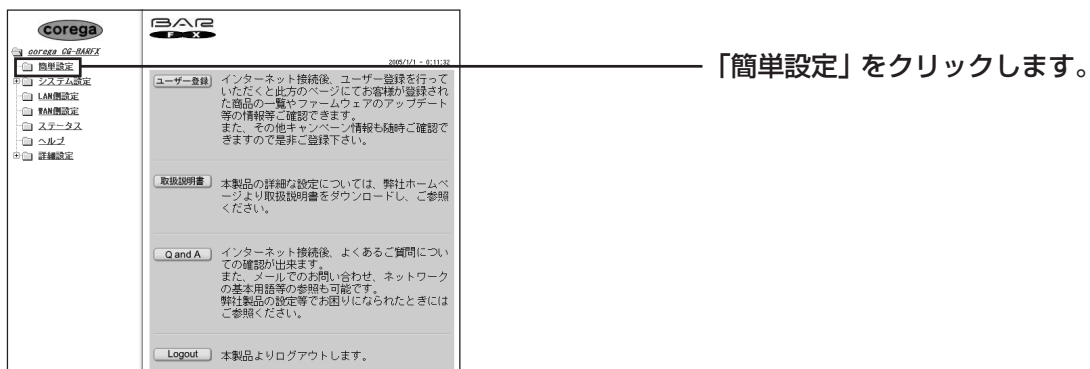
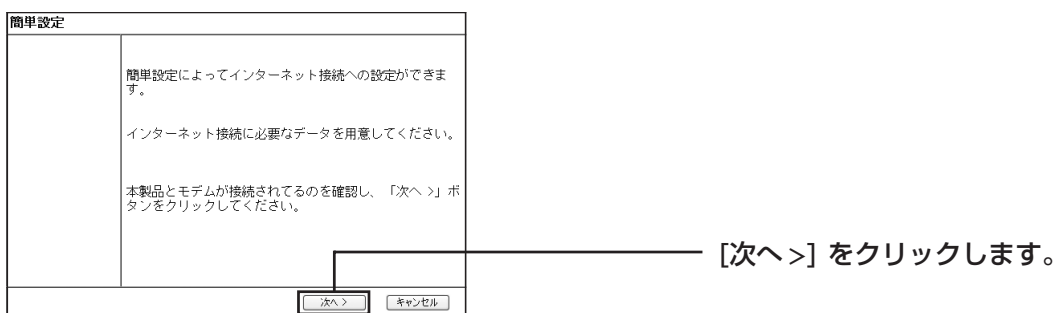
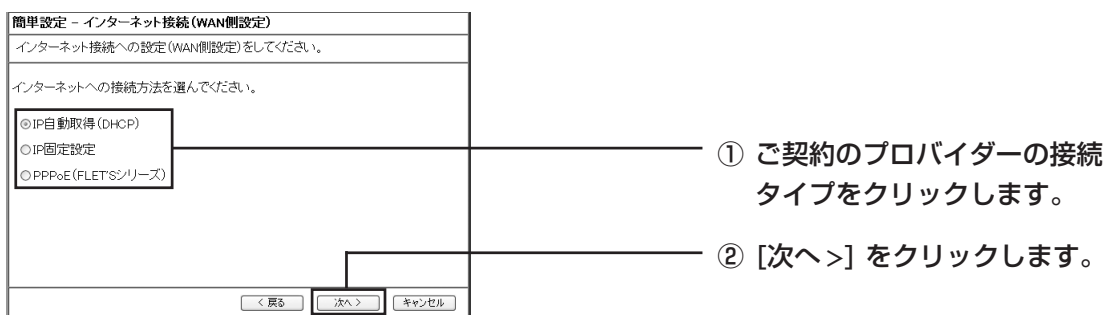
1　本製品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。

2　Web ブラウザーのアドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザー名の欄に「root」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。

※上の画面は Windows XP のものです。
※他の OS も同じ手順で行ってください。

- **工場出荷時の状態では、ユーザー名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。**
- **ユーザー名、パスワードは変更できます。詳しくは「本製品のログイン名（ユーザー名）、パスワードを変更したい」（P.75）をご覧ください。**

4　設定ユーティリティーが起動します。

5　設定ユーティリティーの左側にある「簡単設定」をクリックします。

6　「簡単設定」画面が表示されたら、[次へ >] ボタンをクリックします。

7　「簡単設定ーインターネット接続（WAN 側設定）」が表示されたら、ご契約のプロバイダーの接続タイプを選択し [次へ >]ボタン をクリックします。

以下を参考にして、該当する接続方法を選択してください。

〈IP 自動取得（DHCP）ー Yahoo! BB、CATV など〉

プロバイダーや接続先のネットワーク（ルーター）から IP アドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP 機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。

〈IP 固定設定－固定 IP サービスなど〉

プロバイダーや接続先のネットワーク（ルーター）から固定 IP アドレスを取得している場合に選択します。

〈PPPoE（FLET'S シリーズ）－フレッツ・ADSL、B フレッツなど〉

PPPoEと呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダーよりユーザー名とパスワードが割り当てられます。本製品ではプロバイダーの情報を設定ユーティリティーに登録すると、「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

8　接続タイプに応じて「簡単設定」の各項目を設定します。次の接続方法ごとの説明を参考に、設定を行ってください。

〈「IP 自動取得（DHCP)」の場合〉

「IP 自動取得（DHCP)」を選択した場合は、「簡単設定」で設定する項目はありません。次ページの手順 9 に進んでください。

〈「IP 固定設定」の設定項目〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

項目名	入力例	説明
① WAN 側 IP アドレス	12.34.56.78	プロバイダーから指定された IP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.0	プロバイダーから指定されたサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12.34.56.1	プロバイダーから指定されたゲートウェイの IP アドレスを入力します。
④ DNS サーバー	12.34.56.98	ローカルに DNS サーバーを設置する場合、またはプロバイダーから DNS サーバーの IP アドレスを提供されている場合に入力します。

設定が終わったら［次へ >］ボタンをクリックします。

〈「PPPoE（FLET'S シリーズ)」の場合〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

❶　接続ユーザー名、接続パスワードを入力し、［次へ >］ボタンをクリックします。

項目名	入力例	説明
①接続ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダーより指定された接続ユーザー名※1 を入力します。
②接続パスワード	Password02	プロバイダーより指定された接続パスワード※2 を入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。

※ 1 プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります。

※ 2 入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 25 文字までです。「 ” 」および「 ” 」以降に入力した文字は、保存されません。

❷ フレッツ・スクエアのご利用地域を選択して、［次へ >］ボタンをクリックします。

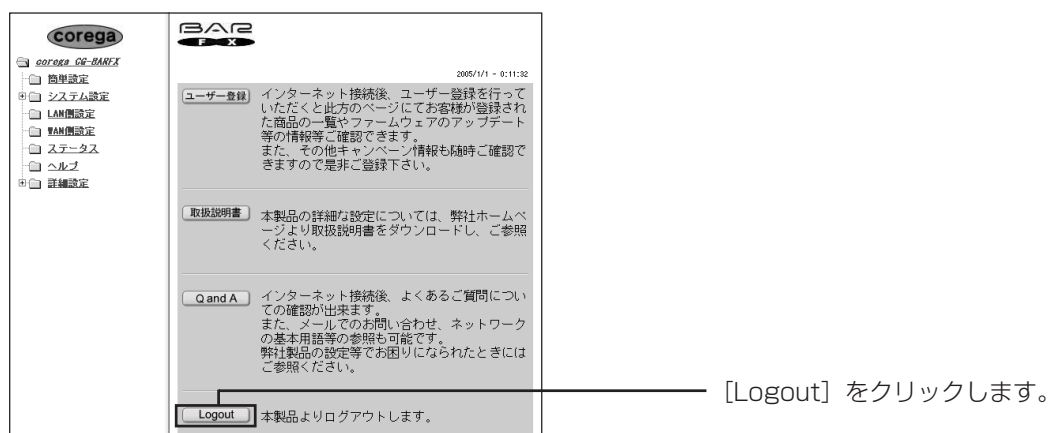
フレッツ・スクウェアを利用しない場合でも「東日本」「西日本」のいずれかを選択してください。手順 11 の接続テストのときセッション 2 にエラーが表示されますが動作に問題はありません。

9　次の画面が表示されたら、［保存］ボタンをクリックします。

10 次のダイアログボックスが表示されたら［OK］ボタンをクリックします。

11 しばらくすると、テスト結果が表示されるので確認して［終了］ボタンをクリックします。
パソコン、モデムと本製品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「正常にテストが終了しました。」と表示されます。

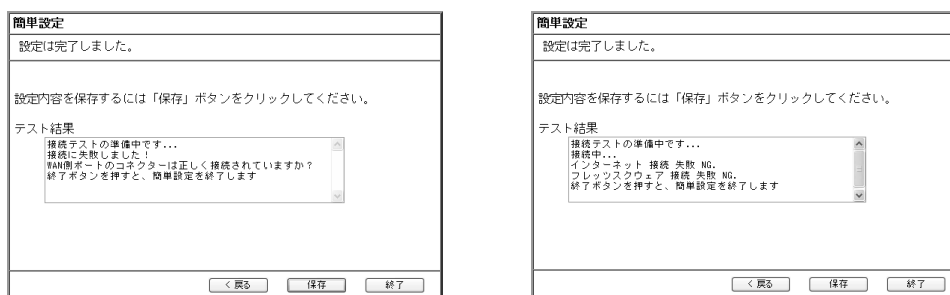
上画面のように表示されなかった場合は、このページの操作９に戻り、再度テストを行ってください。
それでも正常に終了しなかった場合は、「テストに失敗したときは」（次ページ）をご覧になり対処してください。

12 操作５の画面に戻ったら［Logout］ボタンをクリックして設定ユーティリティーを終了します。

「このウインドウを閉じますか?」と表示されるので、[はい (Y)] ボタンを押して終了してください。

・その他の設定項目については、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」（P.28）をご覧ください。本製品のより高度な使用方法については、「PART4 こんなときにはこの設定」（P.54）をご覧ください。

・PPPoE セッションを同時に２つ使用する（マルチ PPPoE）場合には、「マルチ PPPoE で２つの接続先を使い分けるには」（P.58）をご覧ください。

●テストに失敗したときは

テスト終了後、次のような画面が表示されたときは、メッセージの内容を確認して、再度、ウィザードをやり直してください。

上の画面が表示された場合、次のような原因が考えられます。

・WAN ポートの LAN ケーブルが正しく接続されていない
LAN ケーブルの接続を確認してください。

・ユーザー名かパスワードの入力を間違えている
プロバイダーからの契約書類などを確認して、正しく入力してください。

・モデムと回線とが正しく接続されていない
モデムとスプリッタ、スプリッタとモジュラコンセントなどが正しく接続されているか、確認してください。

インターネットに接続してみよう

パソコンと設定ユーティリティーの設定が終わったら、インターネットに接続できるか確認します。

1　本製品に接続したパソコンで、Internet ExplorerなどのWebブラウザーを起動します。

2　Webブラウザーのアドレス入力欄に当社のホームページアドレス「http://www.corega.co.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ホームページが表示されます。

ご契約のプロバイダーによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに、時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダーにお問い合せください。

もし、インターネットにつながらなかった場合は、「PART5 トラブルや疑問があったら」（P.69）をご覧ください。

■他のパソコンを接続する場合

本製品に接続したいパソコンが他にもある場合は、「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.8）、「Webブラウザーの設定をしよう」（P.19）、「パソコン、モデムと本製品を接続する」（P.21）をご覧になり、同じ手順でパソコンの設定を行い、本製品のLAN側ポートとパソコンをLANケーブルで接続してください。

PART3

設定ユーティリティーを見てみよう

本製品を使っていて「高度な機能を使いこなしたい」「設定ユーティリティーの詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定ユーティリティーの全体構成について

各項目の設定を変更した際は、必ず「システム設定」画面の「システム・リブート」の［実行］ボタンをクリックし、本製品を再起動させてください。「システム・リブート」を実行しないと、設定変更内容が本製品に反映されないことがあります。

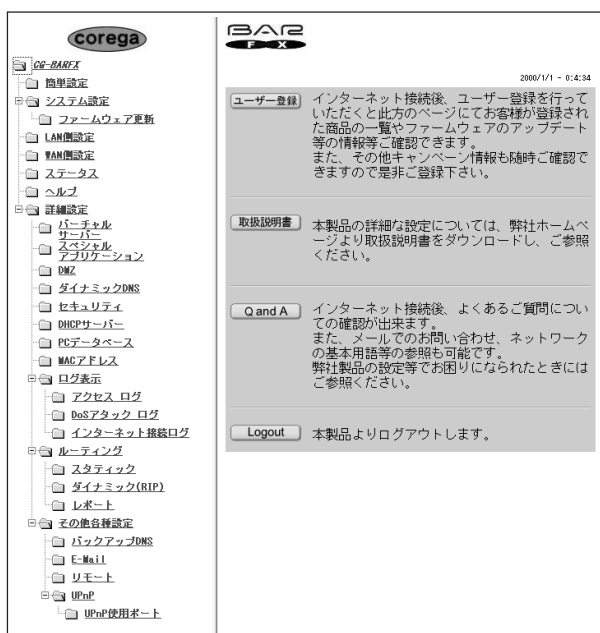
設定画面の各機能

・以下の説明では、画面例を掲載しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。

・各設定画面にある［ヘルプ］をクリックすると、説明が表示されます。

・設定変更を行った際は、各画面下にある［設定］または［更新］ボタンをクリックして、設定内容を保存してください。

■CG-BARFX(トップページ)

設定ユーティリティー起動時の画面です。ユーティリティーの全体図を表示している（画面左側）他、インターネットに接続後は「ユーザー登録」、「取扱説明書」、「Q&A」を表示させることができます。（画面右側）
終了時には「Logout」をクリックすると、画面を閉じることができます。

■簡単設定

簡単なインターネット接続の設定を行います。設定の詳細については、「PART2 ネットワークに接続しよう」「本製品の設定をしよう」（P.22）をご覧ください。

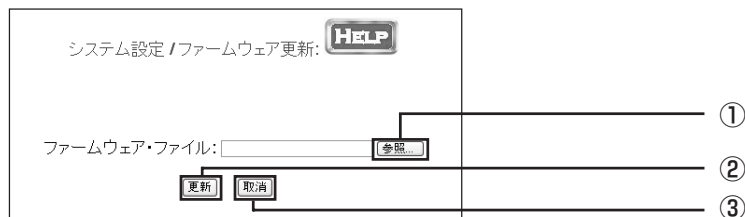
■システム設定

本製品のシステムを変更するときに設定します。変更した後は「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①管理者ログイン名	本製品の管理者用のログイン名を変更します。設定以降はこのログイン名でユーティリティー設定を行います。 ※工場出荷時は「root」
②管理者ログイン・パスワード	本製品の管理者用のパスワードを設定します。空欄にした場合、設定変更するときにパスワードは入力不要です。 ※工場出荷時は設定されていません。
③パスワードの確認	確認のため、再度②で入力したパスワードを入力します。
④ IP マスカレード・テーブル保持時間	IPマスカレード・テーブルの保持時間を設定します。設定時間を長くすることで、FTP サーバー等への長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続等では設定する必要はありません。
⑤ URL ホーム	設定したURLをブラウザー画面で入力すると、本製品の設定ユーティリティーのトップページを表示させることができます。 ・アドレスには「.」(ドット)を組み込んで 3 ～ 24 文字以内で設定します。 ・「.」(ドット)はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。 ※工場出荷時は「corega.home」
⑥ダイレクトPPPoE *	有効にすると、本製品の PPPoE を使用せずに、パソコン(本製品に接続され、インターネットに接続できるパソコン)の PPPoE 接続ツールを使用して直接PPPoE接続します。無効にすると、常に本製品のPPPoE接続機能を使用します。
⑦時間設定	・自動設定にすると、上位のサーバーを通して自動的に時刻を検出して設定します。 ・手動設定にすると、「(西暦)年 / 月 / 日」と「時 / 分 / 秒」の設定ができます。設定した時刻は、本製品の電源を切るとリセットされます。
⑧工場出荷時の状態へ戻す	本製品で設定した項目をすべて工場出荷時の状態に戻します。(P.80) ※今までの設定は削除されますので、実行する前に設定した内容は控えておくことをおすすめします。
⑨システム・リブート	本製品の設定を変更した後に実行します。本製品が再起動され、設定した内容に変更されて動作します。(P.79)
⑩設定保存	本製品で設定した項目をパソコンにファイル形式で保存します。設定のバックアップ等にご使用ください。(P.77)
⑪設定読込	⑩で保存した設定情報を読み込みます。(P.77)
⑫ファームウェア更新	本製品のファームウェアを更新します。(次ページ)

＊ PPPoE
ブロードバンドネットワーク上で、LAN 上の PPP によるダイヤルアップ機能を疑似的に実現させるソフトウェア。

・ファームウェア更新

弊社ホームページから最新のファームウェアをダウンロードしてパソコン内に保存することができます。詳しくは「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」(P.75)をご覧ください。

項目名	内　　容
①［参照］ボタン	ファームウェアのファイルを選択するときにクリックします。
②［更新］ボタン	本体のファームウェアの更新を開始します。
③［取消］ボタン	本体のファームウェアの更新を中断します。

・更新中は絶対に本製品の電源を切らないでください。

・更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新が中断され、ルーターが使用できなくなる恐れがあります。

■LAN 側設定

LAN 側の IP アドレス、サブネットマスクを設定します。LAN 側の IP アドレスを変更したい場合に設定してください。

項目名	内　　容
① MAC アドレス	本製品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。
②LAN側IPアドレス*1	本製品の LAN 側の IP アドレスを入力します。IP アドレスの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」(ドット)で入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.1」に設定されています。
③サブネットマスク*2	本製品のLANインターフェイス*3のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」(ドット)で入力します。 ※工場出荷時は「255.255.255.0」に設定されています。

＊ 1：IP アドレス
　ネットワーク上でコンピューターなどに割り振られる識別番号。
＊ 2：サブネットマスク
　IP アドレスの先頭部分となり、IP アドレスのネットワーク・アドレス部を増やす方法。ビット数で表す。
＊ 3：インターフェース
　2 つのものの間で情報のやり取りを仲介するもの。

■WAN側設定

WAN側のIP自動取得(DHCP)/IP固定、PPPoE、ローカル・オフィスの設定を行います。
設定変更をしたい項目をクリックしてください。変更した後は「システム・リブート」を実行します。

Yahoo! BB、CATVなど	IP自動取得(DHCP)/IP固定 (下記参照)
フレッツADSL、Bフレッツなど	PPPoE (次ページ参照)
社内LANなど	ローカル・オフィス 〈「社内LANとして使用するには」(P.65)参照〉

● IP自動取得(DHCP)/IP固定…Yahoo! BB、CATVなど

IPアドレスの自動割り当てまたは、固定IPを割り当てているプロバイダーのみでご使用になれます。

項目名	内　　容
① MACアドレス	本製品のWAN側のMACアドレスが表示されます。
②タイプ/IP自動取得(DHCP)	特に情報IPアドレス等を指定されていないときは、自動取得にします。 プロバイダー(ISP)から自動的にIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSアドレス等、インターネットに必要な情報を取得します。
③タイプ/IP固定	インターネット接続に必要な情報を指定されたとき、手動で設定します。 **※IP固定にした場合のみ表示** **・WAN側IPアドレス** プロバイダー(ISP)から割り当てられたIPアドレスを入力します。 **・サブネットマスク** プロバイダーから割り当てられたサブネットマスクを入力します。 **・デフォルトゲートウェイ** プロバイダーから割り当てられたゲートウェイアドレスを入力します。
④ドメイン名	プロバイダーから指定された場合ドメイン名を入力します。(②を選択したときのみ)
⑤コンピュータ名	プロバイダーから指定された場合コンピュータ名を入力します。(②を選択したときのみ)
⑥ MTU値＊1	ユーザーが576から1500までの範囲で割り当てることができます。能力の高い接続環境であるほど高い数値を入れると速い速度で送信できます。接続環境に合わせて変更してください。
⑦ DNSサーバー＊2	**自動設定** DNSサーバーのIPアドレスを知らされていないときや自動割り当ての場合に選択します。 **マニュアル設定** プロバイダーよりDNSサーバーのIPアドレスが指定されている場合に選択し、IPアドレスを「DNSサーバー1」「DNSサーバー2」に入力します。

＊1：MTU値
1回の転送で送信できる最大値のこと。接続環境によって適正値があり、どの環境でも「数値大＝速い」ということではない。Ethernetは1500、電話回線(ダイヤルアップ回線)は576が適正と言われている。
＊2：DNSサーバー
インターネット上のパソコンの名前であるドメイン名を、住所にあたるIPアドレス(4つの数字の列)に変換するコンピューター。

● PPPoE…フレッツ ADSL、B フレッツなど

PPPoE アカウント(インターネットに接続する際に必要な ID)の設定をします。

項目名	内　　容
① PPPoE 設定	接続アカウントの情報を設定します。
②接続先設定	接続アカウントを使用する条件を設定します。(P.36) 例：フレッツ・コネクトを利用する場合(P.60)

・PPPoE 設定

PPPoEを使用するときに設定します。設定前にプロバイダーより指定された「ユーザー名」（接続ユーザー名）「パスワード」（接続パスワード）等をご確認ください。

〈セッション 1〉

項目名	内　　容
①セッション選択	上の画面を表示させるときは「セッション 1」を選択します。
②アカウント選択	・5 つのアカウントを登録できます。(「セッション 1」で使用したアカウントは「セッション 2」では使用できません。) ・アカウントを選択して、④～⑬までの設定を変更し、選択しているアカウントに保存できます。右側の［設定］ボタンをクリックすると名称を変更できます。
③ MAC アドレス	本製品の WAN 側（インターネット側）MAC アドレスを表示します。
④ユーザー名	プロバイダー(ISP)より指定されたアカウントのログイン名を入力します。
⑤パスワード	プロバイダーより指定されたアカウントのパスワードを入力します。
⑥パスワードの確認	確認のため、再度⑤で入力したパスワードを入力します。

項目名	内　　容
⑦接続方法	**常時接続** 　常にインターネットへ接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 **トリガー接続** 　インターネットへの接続が発生したときに、自動的にPPPoE接続を行います。 **手動接続** 　手動で接続しない限りインターネット接続を行いません。接続するときは「WAN側設定」－「PPPoE」－［状態］（⑰）－［接続］の順にクリックして、接続してください。
⑧無通信時間監視	プロバイダーのアクセス･ポイントへの接続後､通信を行わなくなってから自動切断までの時間(分)を入力します(トリガー接続、手動接続のときのみ)。
⑨ MTU 値 …P.32 ※１参照	チェックボックスを「有効」にすると、MTU 値が自動的に調整されます。 チェックボックスを「無効」にすると、ユーザーが 576 バイトから 1492 バイトの範囲で設定できます。
⑩PPPoEサービス･タイプ	ご使用する PPPoE のサービスタイプを選択してください。 **PPPoE(セッション２設定可)** 　通常のマルチ PPPoE 接続で通信をします。 **Unnumbered IP(セッション２設定不可)** 　複数のグローバル IP＊1 を使用するサービスを利用する際に使用します。 ・ルーターIPとサブネットマスクは､本製品のIPアドレスとして同じアドレスが WAN 側 /LAN 側に設定されます。 ・グローバルIPをLAN側(パソコン側)で使用するときはLAN側でグローバルIP を固定で設定してください。 **Unnumbered IP+Private IP(セッション２設定不可)** 　複数のグローバル IP とプライベート IP＊2 を同時に使用することができます。 ・Unnumbered IP設定に対してルーターIPを設定することで本製品のグローバル IP を使って IP マスカレード＊3 機能を使用することができます。 ・グローバルIPをLAN側で使用する場合は、パソコン側でグローバルIPを固定で設定してください。
⑪ルーター IP	プロバイダー(ISP)から割り当てられた IP アドレスを入力してください。 （⑩でUnnumbered IPおよびUnnumbered IP+Private IPを選択した時のみ）
⑫サブネットマスク	プロバイダーから割り当てられたサブネットマスクを入力してください。 （⑩でUnnumbered IPおよびUnnumbered IP+Private IPを選択した時のみ）
⑬ DNS サーバー	プロバイダーから指定された DNS サーバーの IP アドレスを入力します。 **自動設定** 　DNS サーバーの IP アドレスが自動割り当ての場合選択します。 　※サーバーの値は自動的に設定されます。 **マニュアル設定** 　プロバイダーからDNSサーバーのIPアドレスを指定されている場合選択し､IPアドレスを入力します。
⑭［設定］	設定変更をした際、保存するときにクリックします。
⑮［取消］	設定変更を取消したいとき、［設定］をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態までキャンセルすることができます。
⑯［戻る］	「PPPoE」画面に戻ります。
⑰［状態］	本製品の現在の状態を表示します。⑦の「接続方法」を「手動接続」にしているときは、［状態］ボタンをクリックして開き、［接続］ボタンをクリックします。

＊１：グローバル IP
　インターネットで使用される IP アドレス。グローバル IP アドレス。
＊２：プライベート IP
　イントラネットや LAN 組織内で自由に発行できる IP アドレス。プライベート IP アドレス。
＊３：IP マスカレード
　グローバル IP を企業等で１つ持ち、複数のパソコンで共有する機能。企業内で持つプライベート IP とグローバル IP を相互に変換することで実現する。

〈セッション 2〉

※ PPPoE 接続の場合の画面例です

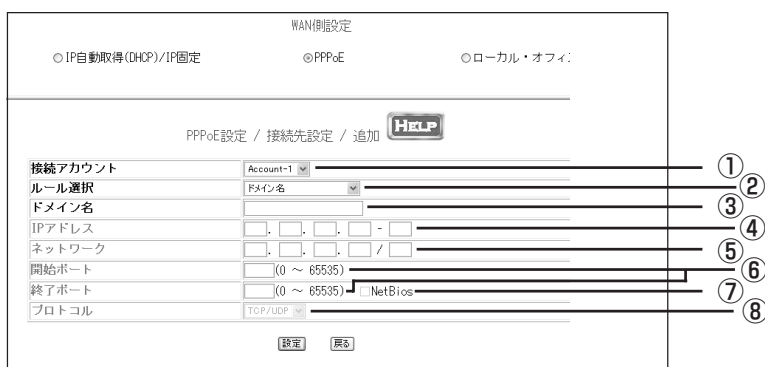
項目名	内　　容
①セッション選択	上の画面を表示させるときは「セッション 2」を選択します。
② LAN TYPE	フレッツ・グループアクセス(NTT東日本)/フレッツグループ(NTT西日本)LAN型払い出しサービスをセッション 2 で使用する場合、「有効」を選択します。 「有効」を選択して「LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを変更してください」と表示された場合は、設定するパソコンの固定 IP アドレスを変更します。

※セッション 2 はセッション 1 の「PPPoE サービス・タイプ」が「LAN TYPE」に替わります。
※その他の項目はセッション 1 と同じ設定内容です。

・**接続先設定**

PPPoE 設定画面で登録した「セッション 2」経由で接続するネットワークの設定を行います。
(例:B フレッツ等)

「追加」ボタンをクリックします。

下図画面が表示されるので、各項目を設定してください。

項目名	内　　容
①接続アカウント	接続するアカウントを選択します。
②ルール選択	接続先に使用するルールを選択します。
③ドメイン名*	接続先のドメイン名を入力します。 例: www.corega.co.jp →「corega」 www.flets →「.flets/」
④ IP アドレス*	接続先の IP アドレスを入力します。 例: http://192.168.10.1 →「192.168.10.1-0」 ftp://192.168.10.1 と 192.168.10.2 →「192.168.10.1-2」
⑤ネットワーク*	接続先の IP アドレスを含むネットワークアドレスを入力します。 例: 192.168.XX.XX →「192.168.0.0/16」 192.168.10.XX →「192.168.10.0/24」
⑥開始、終了ポート*	接続先の開始および終了ポート番号を入力します。 例: http://www.corega.co.jp →「80-80」 ftp://corega.co.jp →「20-21」
⑦ Net Bios	フレッツ・グループアクセス(東日本)/フレッツ・グループ(西日本)のLAN型払い出し（P.59）に接続する場合は、ここにチェックを入れ、有効にします。
⑧プロトコル*	使用するプロトコルを選択します。

＊「ルール選択」で選択した項目によっては入力できないことがあります。

●ローカル・オフィス…社内LANなど

オフィス内でローカル・ルーターとして使用する場合に設定します。

例:社内LANとして使用する

「PART4 こんなときにはこの設定」「社内LANとして使用するには」(P.63)

項目名	内　　容
① MACアドレス	本製品のインターネット側(WAN側)のMACアドレスが表示されます。
②WAN側IPアドレス	WAN側に値するルーターのIPアドレスを入力します。
③サブネットマスク	WAN側に値するサブネットマスクを入力します。
④デフォルト・ゲートウェイ	WAN側の先のゲートウェイ・アドレスを入力します。
⑤DNSサーバー1、2	プロバイダー(ISP)により指定されたDNSサーバーのIPアドレスを入力します。

ローカル・オフィスでご使用になる場合は、「詳細設定」－「セキュリティ」画面を表示させ、「ステートフルインスペクション」を必ず「無効」にしてください。

■ステータス

各種システム情報を表示します。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①ファームウェア・バージョン	本製品のファームウェアのバージョンが表示されます。
②システム稼動時間	システムを立ち上げてからの経過時間が表示されます。
③ LAN 状態	**MAC アドレス** 本製品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。 **IP アドレス** 本製品の LAN 側の IP アドレスが表示されます。 **サブネットマスク** 本製品の LAN 側のサブネットマスクが表示されます。 ※工場出荷時は「255.255.255.0」です。 **DHCP** DHCP の状態(有効 / 無効)を表示します。 **DHCP 開始アドレス** LAN 上に分配する IP アドレスの開始アドレスが表示されます。 **DHCP 終了ドレス** LAN 上に分配する IP アドレスの終了アドレスが表示されます。
④ WAN 状態	**MAC アドレス** 本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 **IP アドレス** 本製品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。 **サブネットマスク** 本製品の WAN 側のサブネットマスクが表示されます。 **ゲートウェイ** 本製品の WAN 側のゲートウェイアドレスが表示されます。 **DNS サーバー** 本製品が取得(設定)された DNS アドレスが表示されます。 ※工場出荷時は「0.0.0.0」です。

■ヘルプ

本製品の各項目の説明をご覧になることができます。メニューリストの「ヘルプ」か、各画面にある［HELP］ボタンをクリックしてください。

・メニューリスト(画面左)に表示されている「ヘルプ」をクリック

corega
CG-WLBARFX
簡単設定
システム設定
LAN側設定
WAN側設定
無線アクセスポイント設定
ステータス
ヘルプ
詳細設定

クリック

ヘルプ全体の項目が表示されます。

ヘルプ

- 簡単設定
  - IP自動取得（DHCP）
  - IP固定設定
  - PPPoE（FLET'Sシリーズ）
- システム設定
  - ファームウェア更新
- LAN側設定
- WAN側設定
  - IP自動取得(DHCP)/IP固定
  - PPPoE
    - セッション-1 設定
    - セッション-2 設定
    - 接続先設定
  - ローカル・オフィス
- 無線アクセスポイント設定
  - 802.11a 設定
  - 802.11a セキュリティ設定
  - 802.11b/g 設定
  - 802.11b/g セキュリティ設定
  - アクセス制限
- ステータス

下線があるところをクリック

各画面の説明が表示されます。

ヘルプ / LAN側設定

LAN側のIPアドレス、サブネットマスクを設定します。

MACアドレス	本製品のLAN側のMACアドレス(Media Access Control)が表示されます。
LAN側IPアドレス	本製品のLAN側のIPアドレスを入力します。 IPアドレスの値は、10進数と「.」で表現します。(例えば、N.N.N.Nのように表しNは、0 から 255 までの値です。) 工場出荷時の初期値は、 192.168.1.1 です。
サブネットマスク	本製品のLANインターフェイスのサブネットマスクを入力します。 工場出荷時の初期値は、 255.255.255.0 です。

戻る

・各画面にある［HELP］ボタンをクリック

■詳細設定

●バーチャル・サーバー

インターネット(WAN側)から本製品のパソコン(LAN側)上にアクセスできるようにして､外部にサーバーを公開することができます。ホームページ等を公開するときに「有効」にして設定します。設定するときは［追加］ボタンをクリックして、表示された画面で設定を行ってください。

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

・パソコンの上では使用するサーバーソフトを実行している必要があります。
・ダイナミックDNS(DDNS)機能を使用することで、より簡単にインターネット上からLAN上のサーバーに接続することができます。

同じLAN内で同種類のサーバーを立ち上げたいときも、同じWAN側IPアドレスを使用します。接続先の指定はポート番号で行います。

項目名	内　　容
①バーチャル・サーバー	バーチャル・サーバーの有効/無効を選択します。選択を変えたときは［設定］ボタンをクリックします。「有効」にするとサーバーをインターネット上に公開することができます。
②UPnP使用ポート情報	バーチャル・サーバーを使用するアカウントを選択します。「UPnP使用ポート」をクリックして［戻る］をクリックすると、UPnPで使用しているポートを確認できます。 ※ UPnP は Windows XP/Me でご使用になれます。
③PPPoE アカウント選択	PPPoE アカウントごとのバーチャル・サーバーの有効/無効を選択します。 ※ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。 ※(S1)は「セッション 1」を示しています。
④バーチャル・サーバー	バーチャル・サーバーの有効/無効を表示します。「有効」にするとサーバーをインターネット上に公開することができます。
⑤接続先	サーバーとなるパソコンを設定します。
⑥プロトコル	バーチャルサーバーで使用するプロトコルを設定します。 ・既に登録されているプロトコルをご使用になるときは、そのプロトコル名を選択してください。 ・追加登録したいプロトコルがある場合は「ユーザー定義」を選択して、⑦、⑧で登録したいプロトコルの使用ポート番号を入力します。
⑦入力開始/終了ポート	インターネット上からLAN上のサーバーに接続するための開始～終了のポート番号を設定します。管理者の任意のポート番号を入力します。 **例:入力ポート番号を 50 ～ 100 に設定する場合→開始 =50、終了 =100** ※既に登録されているプロトコルを選択したときは、自動的にポート番号が入ります。
⑧出力開始/終了ポート	サーバーソフトが使用する開始～終了のポート番号を設定します。管理者の任意のポート番号を入力します。 **例:出力ポート番号を 150 ～ 200 に設定する場合→開始 =150、終了 =200** ※既に登録されているプロトコルを選択したときは、自動的にポート番号が入ります。
⑨サービス・タイプ	バーチャルサーバーの対象となるIPタイプを指定します。特定のプロトコルを選択することにより TCP または UDP もしくは両方のポート番号を動作させます。
⑩備考	バーチャルサーバーの説明を入力します。

接続先でサーバーとなるパソコンが表示されない場合、PC データベースでサーバーとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PC データベース」(P.48)をご覧ください。

●スペシャル アプリケーション

ルーター等によって動作しない一部のインターネット使用アプリケーションを、スペシャル アプリケーションに登録します。インターネットを使用するアプリケーションが動作しない場合、ここで設定してみてください。

その際、アプリケーションのメーカーから、設定に関する情報が必要になります。情報を確認しながら設定を行ってください。入力ポート番号、出力ポート番号はそれぞれパソコンからの入力、出力を意味しています。本設定を行ってもアプリケーションが動作しない場合は、DMZ 機能(次ページ)をお試しください。

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①チェックボックス	使用する箇所をクリックしてチェックを入れます。
①名称	スペシャル アプリケーションに登録する任意の名称を入力します。(半角12文字、全角６文字まで)
②入力ポート番号	**タイプ** スペシャル アプリケーションを使用するときのプロトコル(TCP または UDP)を選択してください。 ※アプリケーションによっては入力および出力で異なるプロトコルを使用するものもあります。 **開始〜終了(アプリケーションメーカーからの情報を確認する)** パソコンがデータを受信する際に、アプリケーションサーバーによって使用されるポート範囲の始まり(開始)〜終わり(終了)の番号を入力します。アプリケーションが１つのポートを使用する場合は、開始および終了に同じ番号を入力してください。 **例: 50 〜 100 に設定するとき…開始 =50、終了 =100** **65 に設定するとき…開始 =65、終了 =65**
③出力ポート番号	**タイプ** スペシャル アプリケーションを使用するときのプロトコルを選択してください。 ※アプリケーションによっては入力および出力で異なるプロトコルを使用するものもあります。 **開始〜終了(アプリケーションメーカーからの情報を確認する)** パソコンがデータを送信する際に、アプリケーション サーバーによって使用されるポート範囲の始まり(開始)〜終わり(終了)の番号を入力します。アプリケーションが１つのポートを使用する場合は、開始および終了に同じ番号を入力してください。 **例: 150 〜 200 に設定するとき…開始 =150、終了 =200** **70 に設定するとき…開始 =70、終了 =70**

● DMZ

LAN 上のコンピューター(DMZ ホスト)に全ての入出力アクセスを可能とします。スペシャルアプリケーション機能を使用できなかったときなどに設定します。
変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

※ PPPoE 設定の画面です

項目名	内　　容
① PPPoE アカウント選択	PPPoE アカウントを選択します。 ※ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。 ※(S1)は「セッション 1」を示しています。
② DMZ ホスト	インターネットを使用して全ての TCP/IP サービスを有効とする場合に設定します。 使用するパソコンを選択してください。 例:ネット・ゲーム、RealPlayer 等

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアーウォール機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

DMZホストで使用するパソコンが表示されない場合、PCデータベースで使用するパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PC データベース」(P.48)をご覧ください。

●ダイナミックDNS(DDNS)

インターネット側からIPアドレスではなくURL(ドメインネーム)を使用してLAN内のバーチャルサーバーなどに接続できます。本機能を使用することによって、ダイナミックIPアドレスのようなIPアドレスが固定されないサービスに対応します。

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

・ダイナミックDNSの設定

1. DDNSサービスに登録手続きをします。
   登録はDynDNS.org(無料サービス)とIvyNetwork(有料サービス)の２つから選択できます。登録手続きをすると、後からユーザー登録確認メールが送信されてきます。
2. 登録した際に受け取った情報をもとに、ログイン名、ログインパスワード、ドメイン名を入力して保存します。
3. 本製品の再起動をします。「本製品を再起動する」(P.79)をご覧ください。
4. 本製品はその時点で使用しているIPアドレスを自動的に設定したサービスに記録します。設定したダイナミックDNSを使用して、バーチャルサーバー等への接続が可能になります。

・PPPoEモードの選択時の設定項目

PPPoEモードを選択しているときは、アカウントごとに設定できる項目があります。

※PPPoE接続の場合の画面例です

項目名	内容
① PPPoEアカウント選択	PPPoEアカウントを選択します。 ※PPPoE接続の場合のみ表示されます。 ※(S1)は「セッション1」を示しています。
②ダイナミックDNS	ご利用になるDNSサービスを選択します。
③ログイン名	DNSサービスに登録したログイン名を入力します。
④ログインパスワード	DNSサービスに登録したパスワードを入力します。
⑤ドメイン名	DNSサービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。
⑥ IPチェック時間	取得したドメイン名とIPアドレスの整合性を指定時間で確認します。

●セキュリティ

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

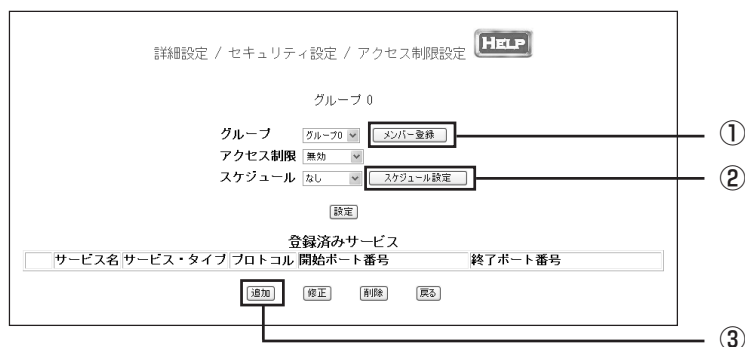
※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
① PPPoE アカウント選択	PPPoE アカウントを選択します。 ※ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
② ステートフルインスペクション	ステートフルインスペクションの有効 / 無効を選択します。 「有効」にするとファイアーウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して動的にポートを解放・閉鎖し、必要なデータのみ受け入れます。 ※ローカル･オフィスモードで使用するときは、必ず「無効」を選択してください。
③ VPN パススルー	VPN(仮想的な専用回線) パススルーの有効 / 無効を選択します。 VPN のパススルーをしたい時に「有効」にします。
④ ステルス モード	ステルス モードの有効 / 無効を選択します。 「無効」にすると、インターネット側(WAN 側)から Ping リクエストがあった際に返答します。Ping 返答することによって、インターネット側から本製品の存在を確認できます。相手によってはお互いの存在を確認してからネット接続を始めるものもありますので、その際に「無効」にします。 「有効」にすると応答しません。
⑤ URL フィルター（→下記）	URLフィルターの有効/無効を選択します。有効にすると、指定した文字列がURLに含まれたページの閲覧を制限することができます。
⑥ アクセス制限（→次ページ）	アクセス制限の有効/無効を選択します。有効にすると、インターネット接続ができるパソコンや時間を制御することができます。

・URL フィルター

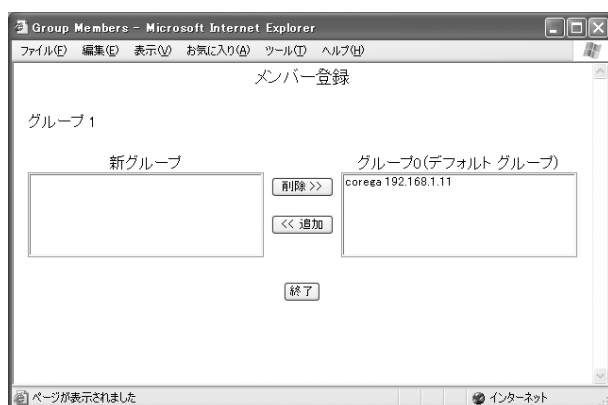
※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
① URL の追加	接続制限したい URL を入力し、［追加］ボタンをクリックすると、フィルターリストに URL が追加されます。 文字列(例:violence)を入力すると、その文字列を含む URL がブロックされます。
②フィルターリスト	現在制限されている URL または文字列が表示されます。1 件を削除するときは、削除したい URL または文字列を選択して［削除］ボタンをクリックします。 全て削除するときは［全て削除］ボタンをクリックします。

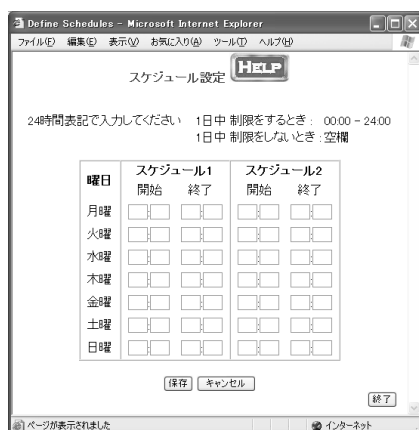
・アクセス制限

①メンバー登録

［メンバー登録］ボタンをクリックすると下画面が表示されます。

新しくグループを作成したいときは、画面右側<グループ０（デフォルトグループ）>から画面左側（新グループ）に加えたいパソコン（IP）を選択し、［追加］ボタンをクリックして入力します。

削除したいときは、削除するグループ名を選択して［削除］ボタンをクリックします。

②スケジュール設定

［スケジュール設定］ボタンをクリックすると下画面が表示されます。

・アクセス制限のスケジュール管理として使用します。
・開始時間から終了時間の間、アクセスを制御することができます。
・１日を２回にわけてスケジュールを組むことができます。
・時間設定は 24 時間表記で入力してください。
　※時間が設定されていないときは、スケジュールでの管理は動作しません。
・設定が終了したら[保存]をクリックして保存します。

曜日	曜日ごとにスケジュールを設定します。
スケジュール１、２	スケジュール２を使用しない場合は、空白で設定してください。
開始	24時間表記で開始時間を入力してください。
終了	24時間表記で終了時間を入力してください。

③追加

［追加］ボタンをクリックすると下画面が表示されます。

※PPPoE接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
①サービス名	追加登録するとき、任意のサービス名を入力します。
②サービス・タイプ	追加登録するサービスタイプ(TCP/UDP/両方/ICMP)を選択します。
③プロトコル	既に登録されているプロトコルをご使用になるときは､そのプロトコル名を選択してください。 追加登録したいプロトコルがある場合は「ユーザー定義」を選択して､④で登録したいプロトコルの使用ポート番号を入力します。
④開始ポート/終了ポート	③で「ユーザー定義」を選択している場合は、任意のポート番号を入力します。 ※既に登録されているプロトコルを選択したときは､自動的にポート番号が入ります。

● DHCP サーバー

変更したいときに各項目の設定を行います。

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
① DHCP サーバー	DHCP機能の有効/無効を選択します。有効にすると自動的にパソコンにIPアドレスを割り振ります。
②リース期限継続方法	DHCPサーバーでリースされるIPアドレスのリース期限継続方法を選択します。 期限指定/無期限 の指定ができます。
③リース期限	DHCP サーバーでリースされる IP アドレスのリース期限を指定します。 ※②を期限指定にしている場合に設定できます。
④DHCP開始アドレス	DHCP サーバーでリース開始の IP アドレスを入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.11」で設定されています。
⑤DHCP終了アドレス	DHCP サーバーでリース終了の IP アドレスを入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.254」で設定されています。

● PC データベース

本製品に接続するクライアントパソコンを登録することができます。
変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①パソコン名	クライアントパソコンの「ホスト名」を入力します。
② IP アドレス	IP アドレスの取得方法を選択してください。 **自動取得(DHCP クライアント)** パソコンがDHCPクライアント(Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」)に設定してあるとき、本製品はこのパソコンにIPアドレスを提供します。IPアドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合やネットワークから長時間パソコンから取り外された状態で再接続した際に変わることがあります。 **固定取得(DHCP クライアント)** パソコンがDHCPクライアント(Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」)に設定してあるとき、毎回決まったIPアドレスを取得したいときに選択します。最後の空欄に 0 ～ 254 までの任意の数字を入力してください。 **固定設定(DHCP 範囲以外)** パソコンが固定 IP アドレスを使用している場合は、これを選択してください。
③ MAC アドレス	適切なオプションを選択してください。 **自動検索** 本製品がパソコンと通信し、そのパソコンのMACアドレスを自動取得するようにします。パソコンが LAN に接続されている状態でお使いください。 **MAC アドレスは** 直接パソコンのMACアドレスを入力してください。MACアドレスは「ハードウェアアドレス」「物理アドレス」または「ネットワークアダプターアドレス」と呼ばれることがあります。本製品は各パソコンを個別に認識するためにこれを使用します。そのため MAC アドレスは空白にしておくことができません。
④［PC データ追加］	パソコンデータを使用して本製品のリストに新しいパソコンを加えることができます。MAC アドレス「自動検索」が選択されている場合、パソコンに「Ping」を送り、その MAC アドレスを登録します。
⑤［データの削除］	画面上で入力した値をクリアすることができます。
⑥［戻る］	標準「PC データベース」(上の画面)に戻るときにクリックします。

● MAC アドレス

本製品の WAN 側の MAC アドレスを変更したいとき、または工場出荷時の MAC アドレスに戻したいときに設定します。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①工場出荷時のMAC アドレスを使用する	工場出荷時の MAC アドレスを使用します。
② MAC アドレスを変更する	MAC アドレスを任意の値に変更します。 **例: LAN アダプターの MAC アドレスを通知する必要があるプロバイダーの場合、通知してある LAN アダプターの MAC アドレスを入力します。**

●ログ表示

・アクセス ログ

アクセスした情報をログに保存します。

・DoS アタック ログ

DoS アタックが発生した際に、そのログを保存します。

※DoS
ネットワークを通じての攻撃の 1 つ。インターネットにつながっているパソコンやルーターなどに不正なデータを送るなどして、使用不能にさせたりする。

・インターネット接続ログ

インターネット接続に関してのログを保存します。

●ルーティング

・スタティック

「こんなときにはこの設定」「社内LANとして使用するには」(P.63)に使用例をご覧ください。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内　　容
①ネットワーク・アドレス	対象となるネットワークの IP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	対象となるネットワークのサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	対象となるネットワークパケットを送るためのゲートウェイもしくは本製品のIPアドレスを入力します。
④インターフェイス	パケットを送るためのインターフェースを指定します。LAN(LAN 側)もしくはWAN(WAN 側)を指定します。

※ゲートウェイ
　異なるプロトコルを相互接続するために変換させる。
※インターフェース
　２つのものの間で情報のやり取りを仲介するもの。

・ダイナミック(RIP)

ダイナミック(RIP)は、ルーター間でルーティング情報をやり取りすることで、パケット転送のルートを決定します。

項目名	内　　容
① RIP (Routing Information Protocol)	使用する RIP のバージョンを選択してください。 本製品は RIPv1、RIPv2 をサポートしています。つないでいる LAN に合わせて設定してください。
② RIP 送信	RIP を送信する場合は、有効に設定します。
③ RIP 受信	RIP を受信する場合は、有効に設定します。

※RIP(リップ)
　ルーター間で使用されるプロトコルの一つで、ルーティング情報の交換などに使用される。

・レポート

ルーティングの現在の状態を表示します。[更新] ボタンをクリックすると、最新の情報を表示します。

詳細設定 / ルーティング / レポート

接続先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	インターフェイス	タイプ
0.0.0.0	0.0.0.0	10.13.38.32	1	WAN	STATIC
10.13.38.117	255.255.255.0	0.0.0.0	1	WAN	STATIC
192.168.1.0	255.255.255.0	0.0.0.0	1	LAN	LOCAL

更新

●その他各種設定

変更した後は「システム設定」−「システム・リブート」を実行します。

・バックアップ DNS

通常のインターネット接続等の場合には使用しません。

項目名	内　　　容
①バックアップ DNS	バックアップ DNS の機能を使用するときに有効に設定します。
② DNS サーバー 1/ DNS サーバー 2	①で「有効」を設定したとき、入力が可能になります。 バックアップ用の DNS サーバーのアドレスを入力します。

・E-Mail

指定したアドレスに、ログ情報を送信することができます。

項目名	内　　容
① E-Mail 設定	E-Mail送信を有効/無効に設定します。有効にするとログ情報を③で入力したメールアドレスに送信します。
② SMTP サーバー名	送信用(SMTP)サーバーのホスト名を設定します。通常はプロバイダー側から指定された SMTP サーバーを入力します。
③メールアドレス	ログ情報の送り先にしたいメールアドレスを設定します。
④ Subject	ログ情報を送るメールの件名を設定します。
⑤ユーザー名	プロバイダー側から指定された送信用アカウントのパスワードを設定します。
⑥パスワード	プロバイダー側から指定された送信用アカウントのユーザー名を設定します。
⑦すぐにアラートを送信する	チェックを付けるとDoSアタックがあった際に、随時ログ情報を③で指定したアドレスに送信します。
⑧ログメール送信スケジュール	ログ情報をメール送信するスケジュールを設定します。⑦にチェックが入っていないときは、指定された時間ごとに③で指定したアドレスにログ情報を送信します。

・リモート

インターネット(WAN 側)上で本製品の設定をしたいときに、この項目の設定を行います。

※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
① PPPoE アカウントを選択	リモート設定を行う PPPoE アカウントを設定します。 ※ PPPoE 接続を選択しているときに表示されます。 ※(S1)は「セッション 1」を示しています。
②リモート設定	リモート設定を有効 / 無効に設定します。 有効にするとインターネット側(WAN 側)から本製品の設定を可能にします。
③ポート	1 ～ 9600 の範囲でポート番号を入力してください。 ※工場出荷時は 8080 インターネット側からの接続の際下記のようにIPアドレスの後ろに「:ポート番号」を指定してください。 例:http://WAN 側 IP アドレス:ポート番号

リモート機能で設定したポート番号は、バーチャルサーバーなどでは使用できません。

・UPnP

※ PPPoE 接続の場合の画面例です

項目名	内　　容
① UPnP 使用ポート	クリックすると UPnP で使用しているポートを確認できます。
② UPnP を使用する	UPnP の有効 / 無効を選択します。 UPnP 機能によって自動的に LAN に接続された装置を検出し認識します。 UPnP 機能は Windows XP/Me でご使用になれます。
③アプリケーションで WAN IP を選択する	UPnP 対応アプリケーションで WAN IP を選択する場合に使用します。
④ WAN 側 IP のセッションを選択する	UPnP を使用するセッションを選択します。〈「PPPoE 設定」(P.33)〉
⑤ WAN の切断機能を有効にする	WAN の切断機能の有効 / 無効を選択します。 有効にすると UPnP 機能を使用して WAN（インターネット側）を切断することができます。

こんなときにはこの設定

ネットワークゲームや音声／ビデオチャットなど、ネットワーク上から各パソコンに直接アクセスする必要がある場合は、本製品の設定を変更する必要があります。このPARTでは、本製品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームをするには、ゲームサーバーとデータの送受信を行うポートを、UPnP設定やスペシャルアプリケーション設定などで本製品に設定する必要があります。

回線業者によっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

■UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本製品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本製品の設定が行われます。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1　設定をするアカウントを選択します
「その他各種設定」「UPnP」で(前ページ)、「UPnPを使用する」を「有効」にします。

・Windows にて、ユニバーサル プラグ アンド プレイ（UPnP）に関するセキュリティーの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windows の修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoft にお問い合わせください。

・UPnPがサポートされているOSは、Windows XP/Meのみです。

■ UPnP に対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームの場合は、次のいずれかの方法で設定します。

●ネットワークゲームが使用するポート番号が分かる場合

使用するポート番号、タイプが分かっている場合は、設定ユーティリティーで次の設定を行います。

「詳細設定」－「スペシャル・アプリケーション」(P.42)で、ネットワークゲーム会社より指定されている使用ポート番号とタイプ（プロトコルのタイプ）を設定します。

ネットワークゲームが使用するポート番号、タイプ（プロトコルのタイプ）については、各ゲームの製造元にお問い合わせください。

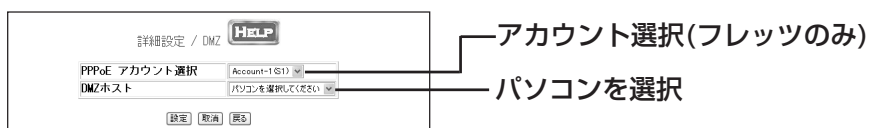
●ネットワークゲームが使用するポート番号が分からない、または毎回変更される場合

DMZ 機能を使います。設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「詳細設定」－「DMZ」(P.43)をクリックします。

2 「PPPoE アカウント選択」でアカウントを選択します。(フレッツ・ADSL、B フレッツなどのみの設定)

3 「DMZ ホスト」でネットワークするパソコンを選択します。

〈PPPoE 設定をしている場合(フレッツ・ADSL、B フレッツなど)の画面〉

〈PPPoE 設定をしていない場合(Yahoo! BB、CATV など)の画面〉

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは、代表的なソフトとして、NetMeeting 、MSN　Messenger、Windows Messengerを利用する場合の設定を説明しています。
本製品では、Microsoft Windows Messenger（Ver.4.7以降)、MSN Messenger（Ver.4.6以降）およびNetMeetingに対応しています。各アプリケーションの使い方は、ヘルプやホームページをご覧ください。

■ NetMeeting

ここでは、DMZ機能を使います。「詳細設定」－「DMZ」(P.43)でネットワークゲームするパソコンを選択してください。

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

■ Windows Messenger（Ver.4.7以降)、MSN Messenger（Ver.4.6以降）

本製品はUPnPに対応しているので、Windows Messenger、MSN Messengerを利用する際は、自動的に本製品の設定が行われます。

1. 設定ユーティリティーの「その他各種設定」－「UPnP」(P.53)をクリックして、画面を開きます。
2. 「UPnPを使用する」を「有効」にします。

・MSN Messenger、NetMeetingは１台のパソコンでのみ使用できます。

・対応OSはWindows XP Service Pack1（SP1）以降のみです。

3. 「使用ポート」をクリックして、ポートの状態を確認します。

外部にサーバーを公開するには

■バーチャル・サーバーを使用する

バーチャル・サーバー機能を利用して外部にサーバーを公開する設定例です。

1　「詳細設定」－「バーチャル・サーバー」をクリックします。

2　「バーチャル・サーバー」の「有効」を選択します。

3　［追加］ボタンをクリックして、接続先のパソコンを選択し、「プロトコル」、「サービスタイプ」を設定します。

「入力ポート番号」および「出力ポート番号」は、「プロトコル」で「ユーザー定義」を選択した場合に、任意の数値を入力します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」－「詳細設定」－「バーチャル・サーバー」（P.40）をご覧ください。

■ダイナミックDNSを使用してURLでアクセスする

インターネット側からドメインネーム（URL）を使用して、バーチャル・サーバーなどに接続することができる設定例です。

1　「ダイナミックDNS」画面にある「DynDNS.org」(無料サービス)または「IvyNetWork」(有料サービス)をクリックして、設定を行います。そのときの「ログイン名」「ログインパスワード」「ドメイン名」は控えておいてください。

2　本製品の「ダイナミックDNS」画面に戻り、1で設定した「ログイン名」、「ログインパスワード」および「ドメイン名」を入力し、［設定］－［Login］ボタンをクリックします。

詳しくは「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」「ダイナミックDNS」(P.44)をご覧ください。

マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには

（プロバイダーと、フレッツ・スクウェア／フレッツ・グループアクセス／フレッツ・グループ／フレッツ・コネクト／フレッツ・コミュニケーションを利用する）

■プロバイダーとフレッツ・スクウェアに接続する

通常はプロバイダーに接続しますが、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続させることができます。
「フレッツ・スクウェア」を利用するには、「セッション 2」に設定を行うことで利用可能になります。

例: 通常のプロバイダーへの接続設定を「セッション -1 の Account-1」に、「フレッツ・スクウェア」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する場合

1 通常のプロバイダーの設定を行います。
「WAN 側設定」－「PPPoE」－「PPPoE 設定」をクリックします。

2 「セッション選択」は「セッション -1」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。（例として「Account-1」を選択します。）

3 通常のプロバイダーから通知された内容(「ユーザー名」、「パスワード」)を入力し、「PPPoE サービス・タイプ」は「PPPoE」を選択します。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

5 次にフレッツ・スクウェアの設定を行います。
「PPPoE 設定」画面で「セッション -2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。（例として「Account-2」を選択します。）

6 「ユーザー名」「パスワード」は、それぞれ下記の表の内容で入力します。「DNS サーバー」は「自動設定」を選択します。

	NTT 東日本のエリアのお客様	NTT 西日本のエリアのお客様
ユーザー名	guest@flets	flets@flets
パスワード	guest	flets

（2004 年 7 月現在）

7 「LAN TYPE」は「無効」にします。

8 「DNS サーバー」は「自動設定」をクリックします。

9 ［設定］ボタンをクリックします。

10 画面上側にある「PPPoE」のラジオボタンまたは［戻る］ボタンをクリックして、「PPPoE」画面を表示して、「接続先設定」をクリックします。

11 ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させせます。

12 「接続アカウント」を「Account-2(S2)」を選択します。（「(S2)」はセッション 2 を示します。）

13 「ルール選択」で「ドメイン名」を選択し、「.flets/」と入力します。

14 ［設定］ボタンをクリックします。

15 「システム設定」画面を開き、「システム・リブート」を実行します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」「WAN 側設定」「PPPoE 設定」（P.33）をご覧ください。

■プロバイダーとフレッツ・グループアクセス（NTT 東日本）／フレッツ・グループ（NTT 西日本）の LAN 型払い出しに接続する

通常はプロバイダーに接続し、フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）のLAN型払い出しを利用して、それぞれのパソコンのファイル共有などが必要な場合に、フレッツ・グループアクセス（NTT 東日本）/ フレッツ・グループ（NTT 西日本）に自動的に接続されます。
フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）/ フレッツ・グループ（NTT西日本）を利用するには、「セッション 2」に設定を行うことで利用可能になります。

例: 通常のプロバイダーへの接続設定を「セッション 1 の Account-1」に、「グループアクセス（NTT東日本）/ フレッツ・グループ（NTT西日本）」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する。

1　通常のプロバイダーの設定を行います。前ページの「プロバイダーとフレッツ・スクウェアに接続する」の手順 1 ～ 4 を行います。

2　フレッツ・グループアクセス（NTT 東日本）／フレッツ・グループ（NTT 西日本）の LAN 型払い出しの設定を行います。
「PPPoE 設定」で「セッション-2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。(例として「Account-2」を選択します。)

3　グループ管理者から通知された「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。

4　任意の「接続方法」を選択します。

5　「LAN TYPE」を「有効」にします。

6　「ルーター IP」と「サブネットマスク」にグループ管理者から通知されている、「IP アドレス」、「サブネットマスク」をそれぞれ入力します。

7　「DNS サーバー」を「自動設定」にします。

8　[設定] ボタンをクリックします。しばらくすると再度設定画面が開きます。[戻る] ボタンをクリックします。

9　「接続先設定」をクリックして［追加］ボタンをクリックします。
「ルール選択」は「IP アドレス(FGA)」を選択します。

10「IP アドレス」にグループ管理者から通知された接続相手の IP アドレスを入力します。

11［設定］をクリックし、リストに登録させせます。

12 リストに登録された「IP アドレス」のラジオボタンが選択されていることを確認して「戻る」をクリックします。

13「システム設定」画面を開き、「システム・リブート」を実行します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」「WAN 側設定」「PPPoE 設定」（P.33）をご覧ください。

- 手順 9 ～ 12 で、接続先が複数ある場合はすべての接続先を登録してください。
- ファイル共有など、使用するアプリケーションによっては、バーチャル・サーバー（P.40）やNetBios（P.36）の設定が必要になります。
- IPアドレス範囲として複数のIPアドレスが割り当てられていて、それぞれのパソコンに固定IPアドレスを割り当てる場合は、「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.8）をご覧ください。
- NetBiosを使用してコンピューターを指定する場合は、WINSサーバーまたはLMHOSTSが必要です。

■フレッツ・コネクト（NTT 東日本）を利用する

フレッツ・コネクトは、B フレッツ、フレッツ・ADSL をご利用のお客さま同士による、IP 電話機能などの音声・映像・データによる多彩な通信サービスを提供します。
簡単な番号（コネクト ID）により相手先の IP アドレスを意識することなく接続できます。フレッツ・コネクトを利用するには、「セッション 2」に設定を行うことで利用可能になります。

例: 通常のプロバイダーへの接続設定を「セッション 1 の Account-1」に、「フレッツ・コネクト」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する。

1　P.58 の手順 1 ～ 4 をご覧になり、通常のプロバイダーへの接続設定を行います。

2　次にフレッツ・コネクトの設定を行います。
「PPPoE 設定」で「セッション -2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。(例として「Account-2」を選択します。)

3　フレッツ・コネクトで使用する「ユーザー名」「パスワード」をそれぞれ入力します。

4　「DNS サーバー」は「自動設定」を選択します。［設定］ボタンをクリックして［戻る］ボタンをクリックします。

5　「接続先設定」をクリックして、フレッツコネクトの追加設定をします。

① ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」「ネットワーク」にして、「172.0.0.0/8」を入力し、［設定］ボタンをクリックします。接続先設定画面に戻ります。

② ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」を「ドメイン名」にして、「.flets/」を入力し、［設定］ボタンをクリックします。

③ ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」を「ドメイン名」にして、「.connect」を入力して［設定］ボタンをクリックします。

①～③の「アカウント選択」は必ず同一のアカウントにしてください。

6　リストに「172.0.0.0/8」「.flets/」「.connect」が登録されていることを確認して［戻る］ボタンをクリックし、PPPoE の設定画面に戻ります。

7　［戻る］ボタンをクリックします。

8　「その他各種設定」をクリックします。

9　「UPnP」をクリックして、「WAN 側 IP のセッションを選択する」「セッション 2」を選択して［設定］ボタンをクリックします。しばらくすると、「UPnP 設定」画面に戻ります。

10「システム設定」画面を開き、「システム・リブート」を実行します。

以上で、フレッツ・コネクトを利用するための本製品の設定は終わりです。
ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コネクトをご利用ください。

- **PPPoE ブリッジ接続でフレッツ・コネクトを使用する場合は、「フレッツ・コネクト」セットアップガイドをご参照ください。**
- **フレッツ・コネクトをセッション 1 に設定した場合は、Windows Messenger や MSN Messenger などのメッセンジャーソフトはご利用できません。**

■フレッツ・コミュニケーション（NTT 西日本）を利用する

フレッツ・コミュニケーションは、B フレッツ、フレッツ・ADSL をご利用のお客さま同士による、IP 電話機能などの音声・映像・データによる多彩な通信サービスを提供します。
簡単な番号（コネクトID）により相手先のIPアドレスを意識することなく接続できます。「フレッツ・コミュニケーション」を利用するには、「セッション２」に設定を行うことで利用可能になります。

例: 通常のプロバイダーへの接続設定を「セッション１の Account-1」に、「フレッツ・コミュニケーション」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する。

1　P.58 の手順１～４をご覧になり、通常のプロバイダへの接続設定を行います。

2　次にフレッツ・コミュニケーションの設定を行います。
「PPPoE 設定」で「セッション-2」を選択し、フレッツ・コミュニケーションで使用する「ユーザー名」「パスワード」をそれぞれ入力します。

3　「DNS サーバー」は「自動設定」を選択します。

4　［設定］をクリックして設定内容を保存し、［戻る］ボタンをクリックします。

5　「接続先設定」をクリックして、フレッツ・コミュニケーションの追加設定をします。

① ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」「ネットワーク」にして、「219.111.224.0/20」を入力し、［設定］ボタンをクリックします。接続先設定画面に戻ります。

② ［追加］ボタンをクリックして追加画面を表示させます。
「アカウント選択」は「Account-2(S2)」、「ルール選択」を「ドメイン名」にして、「.flets-c.jp」を入力し、［設定］ボタンをクリックします。

①②の「アカウント選択」は必ず同一のアカウントにしてください。

6　リストに「219.111.224.0/20」「.flets-c.jp」が登録されていることを確認して［戻る］ボタンをクリックし、PPPoE の設定画面に戻ります。

7　［戻る］ボタンをクリックします。

8　「その他各種設定」をクリックします。

9　「UPnP」をクリックして、「WAN 側 IP のセッションを選択する」は「セッション２」を選択して［設定］ボタンをクリックします。しばらくすると、「UPnP 設定」画面に戻ります。

以上で、フレッツ・コミュニケーションを利用するための本製品の設定は終わりです。
ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コミュニケーションをご利用ください。

- **UPnP を使用するセッションをフレッツ・コミュニケーションで接続するため、Windows Messenger や MSN Messenger などのメッセンジャーソフトはご利用できません。**
- **PPPoE ブリッジ接続では、フレッツ・コミュニケーションはご利用できません。（2004 年７月現在）**

■複数固定 IP サービスを利用するには（Unnumbered 利用）

各プロバイダーが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダーから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本製品および本製品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバー公開などが可能になります。

例: 本製品の元の設定…IP アドレスが「192.168.1.1」サブネットマスクが「255.255.255.0」

項目名	プロバイダーからの情報
IP アドレス	XXX. ○○○ . □□□ .113 ～ XXX. ○○○ . □□□ .120
サブネットマスク	255.255.255. ◆◆◆
DNS サーバー	12.34.56.12

設定するパソコンの IP アドレスを「XXX. ○○○ . □□□ .115」と設定したい場合

1 「WAN 側設定」－「PPPoE」画面を表示させて、「セッション選択」を「セッション 1」にします。

2 その他を以下のように設定します。
- ・PPPoE サービス・タイプ → 「Unnumbered IP」にします。
- ・ルーター IP → 「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します。（プロバイダーから割り当てられた2番目のIPアドレスが入ります）
- ・サブネットマスク → 「255.255.255. ◆◆◆」と入力します。
- ・DNS サーバー →「マニュアル設定」のラジオボタンをクリックして、「12.34.56.12」と入力します。

2 ［設定］ボタンをクリックします。

3 「システム設定」画面から「システム・リブート」の［実行］ボタンをクリックします。

リブートが終了すると、設定が全て終了するまで本製品の設定画面が表示されなくなります。

4 設定するパソコンの固定 IP アドレスを以下のように変更します。
- ・IP アドレス → 「XXX. ○○○ . □□□ .115」（設定したい IP アドレス）
- ・サブネットマスク → 「255.255.255. ◆◆◆」
- ・デフォルトゲートウェイ → 「XXX. ○○○ . □□□ .114」(ルーターの IP アドレスと同じ)

変更方法は各 OS の取扱説明書をご覧ください。

5 本製品の設定画面を再度見る場合は、ブラウザー画面で入力する数値を、「WAN 側設定」で設定した「XXX. ○○○ . □□□ .114」を入力します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティーを見てみよう」「PPPoE 設定」（P.33）をご覧ください。

Unnumbered を利用する場合は、「LAN 側設定」(P.31) で LAN(パソコン側) に固定 IP アドレスを設定する必要があります。

社内LANとして使用するには

本製品は企業やSOHOのLAN内のローカルルーターとして使用する「ローカル・オフィス」機能(P.37)を選択し、ネットワークを分けることができます。

■設定手順

LAN側の設定をする(本ページ)

本製品をローカルオフィスモードにする(P.65)

(本製品の上位にあるルーターをスタティックルート設定にする)

※上位にあるルーターの設定は、上位ルーターの取扱説明書をご覧ください。

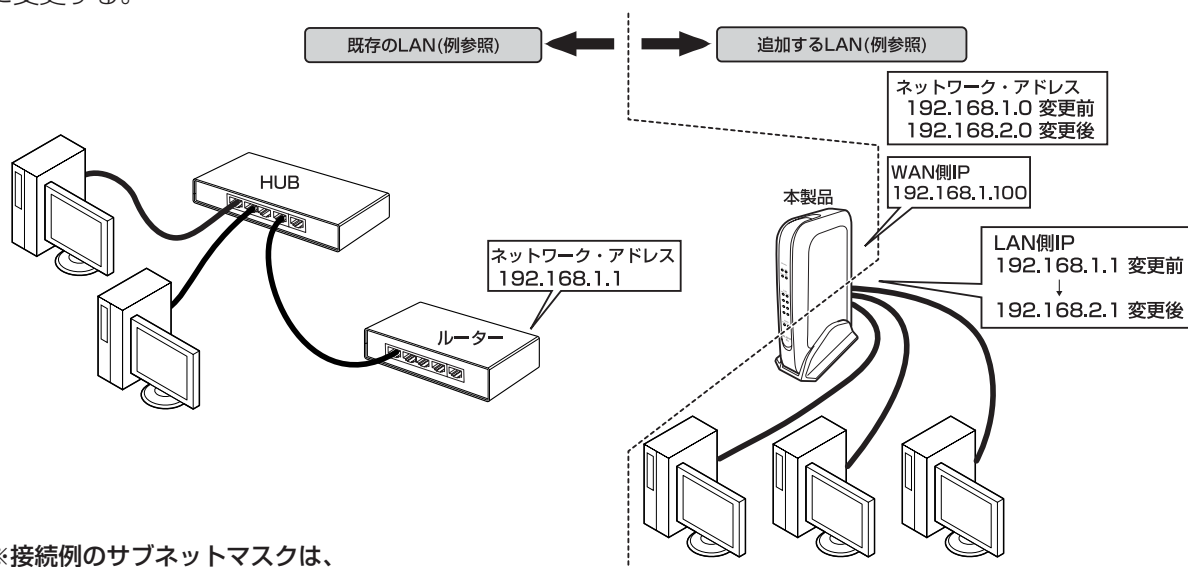
ここでは次のネットワーク環境を例として説明しています。

既存のLAN:(ルーターのWAN側):	ネットワーク・アドレス	→ 192.168.1.0
	サブネットマスク	→ 255.255.255.0
追加するLAN(ルーターのLAN側):	ネットワーク・アドレス	→ 192.168.2.0
	サブネットマスク	→ 255.255.255.0
WAN側IPアドレス:	−	→ 192.168.1.100

※値はすべて一例です。実際に入力する値は、ご使用の環境に合わせてください。

■LAN側の設定

上位ルーターのネットワークと本製品のLAN側ネットワークが重複する場合にLAN側の設定を変更する必要があります。ここでは本製品のLAN側IPアドレスの変更方法について説明します。

例: これからつなぐ上位ルーターとネットワークが重複するため、「192.168.1.1」を「192.168.2.1」に変更する。

※接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。

LAN側の設定をするときは、本製品と上位ネットワークとは接続しないで行ってください。

1　設定画面から「LAN側設定」をクリックします。

2　下記の項目を設定します。

①LAN側IPアドレスは、本製品のLAN側ポートに付けるIPアドレスを入力します。
例:192.168.2.1（工場出荷時「192.168.1.1」から変更した場合）

②サブネットマスクは本製品のLAN側ポートに付けるサブネットマスクを入力してください。
例:255.255.255.0

3　［設定］をクリックします。LAN側の設定が保存されます。

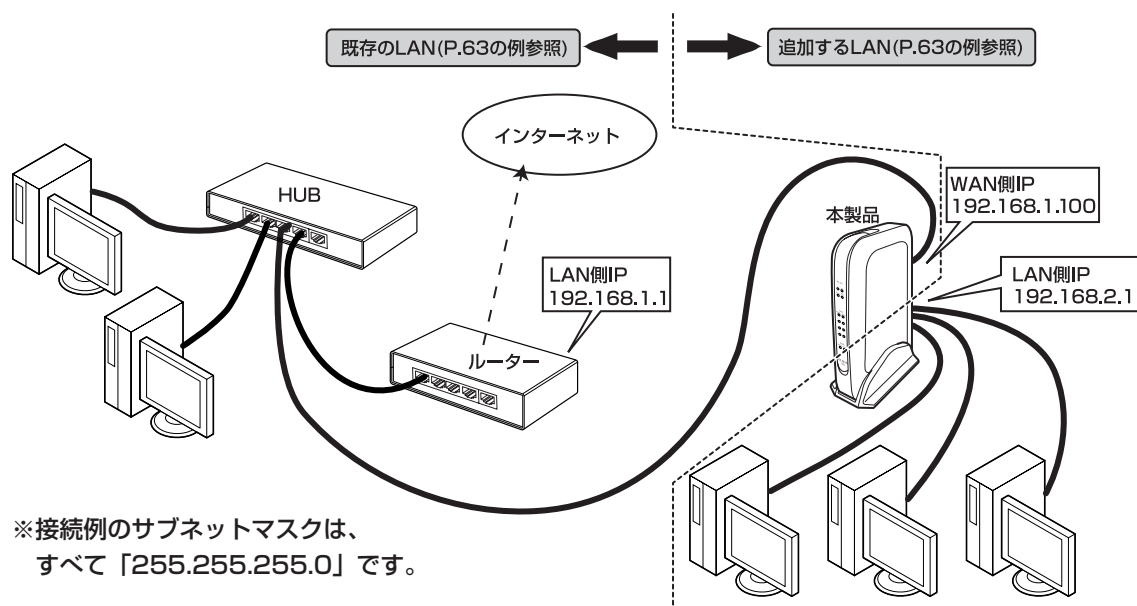
［設定］をクリックすると、LAN側のIPアドレスが変更され、ユーティリティー設定画面が表示されなくなります。再度ユーティリティー画面を表示させるには、変更したLAN側IPアドレス（例では192.168.2.1）をブラウザーのアドレス欄に入力し、［移動］ボタンをクリックすると表示されます。表示できない場合は、ルーターの電源を入れ直してください。

パソコンのIPアドレスは自動取得に設定します。

以上で本製品のLAN側IPアドレスの設定ができました。

次に「ローカル・オフィスモードの設定」(次ページ)を行います。

■ローカル・オフィスモードの設定

本製品が工場出荷状態のままのときは、動作モードはWAN側IP(自動取得)モードになっています。
ここでは「WAN側設定」で本製品をローカル・オフィスモードに変更して、WAN側IPアドレスを設定する方法で説明します。

1　本製品を上位ネットワークに接続します。

2　追加するLANに接続しているパソコンを起動します。

3　本製品の設定画面を開き、「WAN側設定」をクリックします。

4　「ローカル・オフィス」をクリックします。(P.37)

5　必要な設定内容を入力します。

・WAN側IPアドレスに本製品のWAN側ポートに付けるIPアドレス(192.168.1.100〈P.63の例参照〉)を入力してください。

・サブネットマスク(255.255.255.0〈P.63の例参照〉)を入力してください。

・デフォルトゲートウェイ(192.168.1.1〈上記イラスト参照〉)を入力してください。デフォルトゲートウェイは、本製品とつながっている上位のルーターのLAN側IPアドレスを入力します。

・DNSサーバー1、2は、社内にあるDNSサーバーのIPアドレスか、プロバイダーから指定されたDNSサーバーのIPアドレスを入力してください。

DNSサーバーが1つしか指定されなかったときは、「DNSサーバー1」に入力してください。

6　[設定] ボタンをクリックします。「リブートしますか?」 というメッセージが表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。

7　リブート後、「詳細設定」－「セキュリティ」 画面を表示させて、「ステートフルインスペクション」 を“無効”にします。

上位のルーターの設定については、各ルーターの管理者にご確認ください。

以上でローカル・オフィスモードに設定することができました。

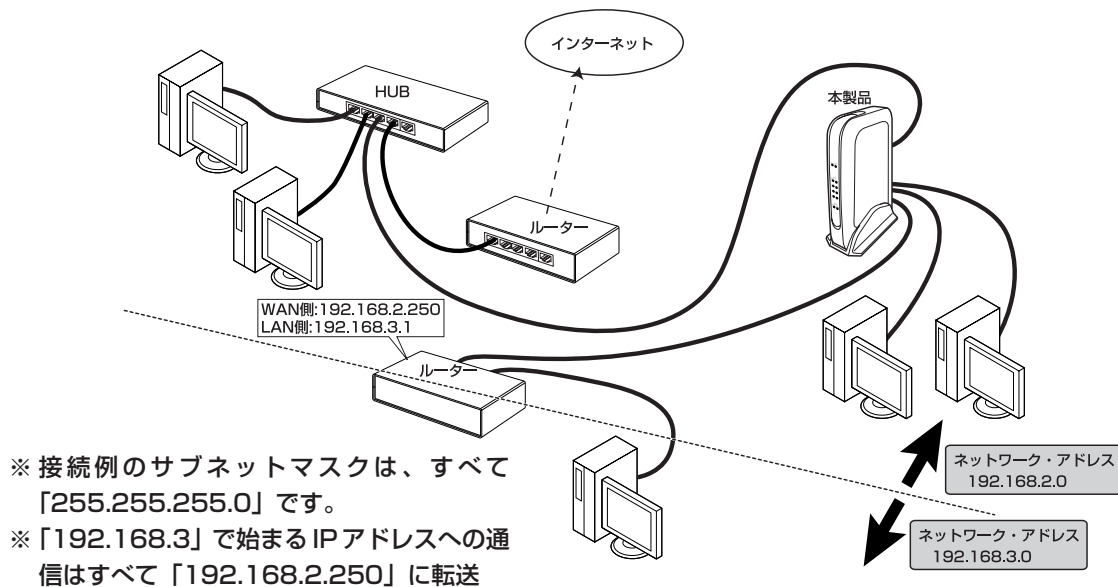
その他のルーティング設定例

ここでは本製品の下位にルーターを追加する場合を説明します。

■ スタティックルートの設定

隣接するルーターがRIPに対応していない場合は、手動で通信経路を指定します。

例:「ネットワーク・アドレス:192.168.3.0、サブネットマスク:255.255.255.0」というネットワークを追加する。

※接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。
※「192.168.3」で始まるIPアドレスへの通信はすべて「192.168.2.250」に転送

1　設定画面から「詳細設定」－「ルーティング」－「スタティック」をクリックして、［追加］ボタンをクリックします。

2　以下の設定を行います。

①ネットワーク・アドレスは、通信の宛先となるネットワークのアドレスを入力してください。
(例:192.168.3.0)

②サブネットマスクは、ネットワーク・アドレス欄に入力したアドレスのどこまでがネットワークアドレスであるかを表す数値です。
(例:255.255.255.0)

③ゲートウェイは、ネットワーク・アドレス欄とサブネットマスク欄で指定した宛先への経路となるルーターのIPアドレスを入力してください。
(例:192.168.2.250)

④インターフェイスは、ゲートウェイ欄で指定したルーターが、LAN側とWAN側のどちらに存在しているのかを選択してください。
(例:LANを選択)

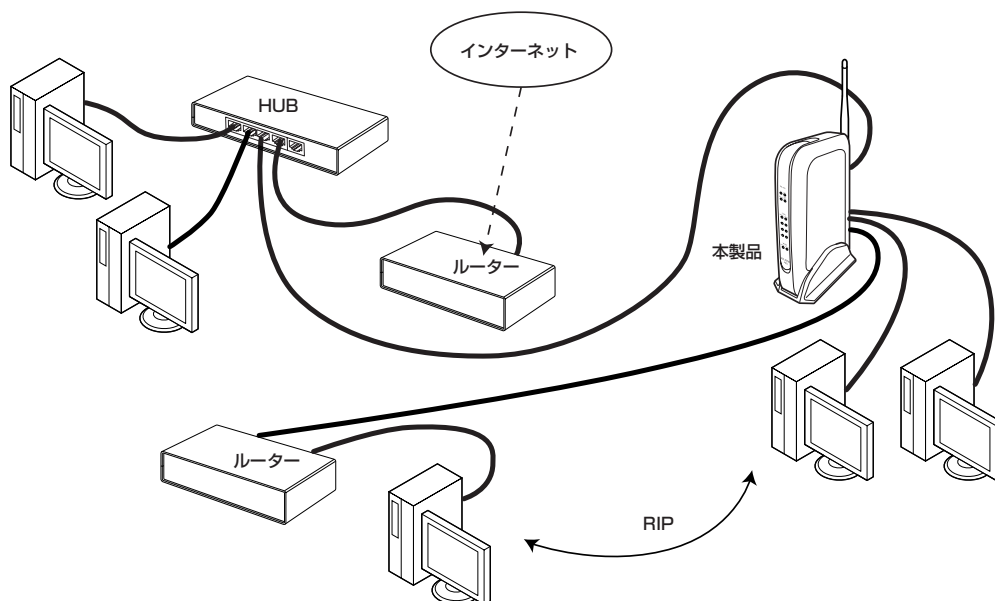
3　［設定］ボタンをクリックします。ルーティング画面に設定が追加されます。

4　「システム設定」画面を表示させて、「システム・リブート」の［実行］ボタンをクリックして、再度システム・リブートを実行します。

■ RIP の設定

LAN 側の別途ルーターが存在する場合は、そのルーティング経路を本製品に設定する必要があります。本製品はダイナミックルーティングプロトコルであるRIP機能に対応していて、隣接するルーターとRIPによって、自動的に経路の情報を交換できます。

隣接するルーターがRIPに対応していないときは、手動でルート設定をする必要があります。(「スタティックルートの設定」〈P.67〉)

本製品の RIP 機能は LAN 側のみに設定できます。

1　設定画面から「詳細設定」ー「ルーティング」ー「ダイナミック(RIP)」をクリックします。

2　以下の設定を行います。

・RIP バージョンは、RIP 機能を使用するかどうか、使用する場合はバージョン(v)1 か 2 を選択します。隣接するルーターにも同様にバージョンを選択します。

・RIP 送信 / 受信は、RIP を送信するか、受信するかを選択します。

3　［設定］ボタンをクリックします。

4　「システム設定」画面を表示させて、「システムリブート」の［実行］ボタンをクリックします。

トラブルや疑問があったら

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、このPARTで解決方法を探してください。

解決のステップ

❶取扱説明書や契約書を確認する。管理者に確認する

❷この PART の Q&A を確認する

〈トラブルは？〉

インターネットに接続できない
①プロバイダーとの契約や回線工事は完了していますか？
②電源は入っていますか？
③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
⑤その他の接続は大丈夫ですか？
⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？
⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？
⑧プロバイダーからの入力事項を正しく設定しましたか？
⑨ Web ブラウザーの設定は正しいですか？
パソコン同士がつながらない
・ファイルやプリンターが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？
本製品の設定ユーティリティーが起動しない
本製品の設定ユーティリティーにログインできない
ファームウェアのアップデートに失敗した

〈疑問は？〉

パソコンの IP アドレスを調べたい
本製品のパスワードを変更したい
最新のファームウェアを入手してアップデートしたい
本製品の設定のバックアップを取る。元に戻す
本製品を再起動する
本製品を工場出荷時の状態にもどす

❸コレガのホームページの情報を活用する

❹それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

詳しくは、最終ページの「製品に関するご質問は…」をご覧ください。

取扱説明書や契約書を再確認する / 管理者に確認する

本書以外にもプロバイダー契約時の設定取扱説明書、モデムの取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、外部の装置の問題で正しくつながらないこともあります。下記の「インターネットに接続できない」の項目をすべて確認してもつながらない場合は、プロバイダー、パソコンのメーカーなどに問い合わせてみてください。なお、企業でお使いの方はネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。接続できない場合はネットワーク管理部門や部内のネットワーク管理者などに確認してください。

Q&A

■インターネットに接続できない

以下の項目については、順番に確認し☑のようにチェックを付けてください。

①プロバイダーとの契約や回線工事は完了していますか？

B フレッツまたはフレッツ・ADSL ＋対応プロバイダーなどの場合

□回線適合調査でサービス可能と認定され、工事は完了したか

□B フレッツまたはフレッツ・ADSL に対応したプロバイダーの工事は完了したか

②電源は入っていますか？

各接続機器の電源 LED がついているか、または AC アダプターなどが外れていないかを確認してください。

□ADSL モデムまたは回線終端装置などに電源が入っているか（AC アダプターが外れていないか）

□本製品に電源が入っているか（AC アダプターが外れていないか）

③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？

□モデム（ADSL モデム、回線終端装置）とケーブル（電話回線用モジュラケーブル、同軸ケーブル、光ケーブル）が外れていないかを確認してください。詳しい接続については、モデムや回線終端装置に付属の取扱説明書をご覧ください。

④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？

□本製品と ADSL モデムまたは回線終端装置は LAN ケーブルで正しく接続されているか

本製品とモデムが正常に接続されているとWAN LEDが点灯します。点灯していない場合は、ケーブルを差し直すなどしてみてください。また、モデムにMDI/MDI-Xを切り替えるスイッチがあれば切り替えてみてください。

□本製品とパソコンは LAN ケーブルで正しく接続されているか

パソコンと本製品が正常に接続されている場合は、パソコンに電源が入っていると本製品の前面にある各 LAN ポートの Link/Act LED が点灯します。パソコンに LAN ボードまたは LAN カードがきちんと挿入されているか、LAN ポートに正しくケーブルが接続されているかも再度確認しましょう。

⑤その他の接続は大丈夫ですか？

フレッツ・ADSL の場合

□スプリッタの出力ポートの接続は正しいか（電話用と ADSL モデム用の確認）

ADSL モデム、スプリッタの取扱説明書をご覧になり、確認してください。

⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？

□パソコンのネットワークアダプタのドライバーの設定は正しいか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.8）をご覧になり、パソコンのネットワークアダプタが正常に動作していることを再度確認してください。

⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？

□パソコンの TCP/IP が正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.8）をご覧になり、パソコンの TCP/IP が正しく設定されていることを再度確認してください。

□割り当てられた固定 IP アドレスなどが設定されているか

プロバイダーから複数の固定IPアドレスを割り当てられている場合は、下記の手順でそれぞれのパソコンのネットワーク設定を行ってください。

・Windows XP の場合(P.8)
「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順 7「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で、割り付けられた「IP アドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows 2000 の場合(P.11)
「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順 5「TCP/IP のプロパティ」画面で、割り付けられた「IP アドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows Me/98/95 の場合(P.15)
「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順 5「TCP/IP のプロパティ」画面で、割り付けられた「IP アドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」を設定してください。

⑧プロバイダーからの設定事項を正しく入力しましたか？

□契約時の設定事項を本製品およびパソコンに正しく入力したか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「本製品の設定をしよう」（P.22）で行ったプロバイダーからの設定事項をすべて設定ユーティリティーに正しく入力しないとインターネットには接続できません。パスワードは入力を間違っても画面上で確かめることができませんので、再度入力をやり直してみてください。大文字／小文字が区別される場合もありますので注意してください。

⑨ Web ブラウザーの設定は正しいですか？

□Web ブラウザーの設定項目は正しいか

Webブラウザーの設定についてはプロバイダー契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書や OS のヘルプなどをご覧ください。

Windows 98/95 をお使いで、はじめてインターネットに接続した場合、インターネット接続ウィザードが表示されます。その場合、次の手順で設定してください。

1 ［スタート］ー「プログラム」ー「通信」ー「インターネット接続ウィザード」をクリックします。

2 「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、［次へ］をクリックします。

3 「ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、［次へ］をクリックします。

4 「プロキシーサーバーの自動検出」のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。

5 「インターネットメールアカウントの設定」画面で「いいえ」をクリックし、［次へ］をクリックします。

6 「完了」をクリックします。

パソコンをダイヤルアップ環境で利用されていた方は、お使いのOSによってはWebブラウザーの設定を変更する必要があります。プロバイダー契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書や OS のヘルプなどをご覧ください。

■パソコン同士がつながらない

●ファイルやプリンターが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

□パソコンのネットワーク共有サービスの設定を行う

本製品のLANポートに接続されたパソコン同士がデータのやり取りをするには、共有ネットワークの設定が必要です。複数台のパソコンでデータのやり取りをする場合、Windows ではMicrosoft ネットワーク共有サービスを使ったワークグループ接続（ピアツーピア接続）が一般的です。設定方法については、各 OS のヘルプをご覧ください。

■本製品の設定ユーティリティーが起動しない

●パソコンのネットワーク設定は正しくできていますか？

□パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.8）をご覧になり、パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか再度確認してください。

●プロキシサーバーを使う設定になっていませんか？

□Webブラウザーのプロキシサーバーの設定は正しいか

「PART2 ネットワークに接続しよう」「Webブラウザーの設定をしよう」（P.19）をご覧になり、Webブラウザーでプロキシサーバーを使用しない設定にしてください。

●すでにフレッツ・ADSL/Bフレッツに接続している場合は

これまでパソコンにADSLモデムなどを直接接続して、フレッツADSL/Bフレッツに接続していた場合は、次の点を確認してみてください。

□Windows XPで、PPPoE接続の設定がされていませんか？

Windows XPの「コントロールパネル」－「ネットワーク接続」で、「広帯域」の接続が作成されていると、ルーターの設定ができません。「広帯域」の接続を削除してください。

□「フレッツ接続ツール」を使用していませんか？

NTTより配布されている「フレッツ接続ツール」を使用して、フレッツ・ADSL/Bフレッツに接続するように設定されていると、ルーターの設定ができません。「フレッツ接続ツール」を削除してください。

■本製品の設定ユーティリティーにログインできない

●別のパソコンがログインしていませんか？

別のパソコンがログインしていないか確認してください。別のパソコンがログアウトしたら、もう一度ログインしなおしてください。

●パスワードを忘れた

本製品を工場出荷時の状態に戻してください。パスワードがクリアされます。本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本製品を工場出荷時の状態に戻す」（P.80）をご覧ください。パスワードを設定したい場合は、このPARTの「本製品のログイン名（ユーザー名）、パスワードを変更したい」（P.75）をご覧になり、再設定してください。

本製品を工場出荷時の状態に戻すと、パスワードだけでなく、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいます。再設定してください。

■ファームウェアのアップデートに失敗した

本製品を工場出荷時の状態に戻してから、再度、ファームウェアのアップデートを行ってください。
本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本製品を工場出荷時の状態に戻す」（P.80）をご覧ください。

本製品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいます。再設定してください。

■パソコンのIPアドレスを調べたい、更新したい

本製品よりパソコンに割り当てられたIPアドレスを調べる場合は、次の方法で行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

● Windows XP/2000の場合

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。

2 キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

※画面例
「C:¥Documents and Settings¥corega」の部分は、
パソコンの使用環境によって表示が異なります。

3 IPアドレスを確認します。

※正しく表示されない場合もしくはIPアドレスを更新したい場合
①「ipconfig␣/release」と入力して、「Enter」キーを押します。
②「ipconfig␣/renew」と入力して、「Enter」キーを押します。
半角スペースを入力します。

● Windows Me/98/95の場合

1 ［スタート］－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

2 「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、［OK］ボタンをクリックします。

3 パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択します。パソコンのIPアドレスが表示されます

※正しく表示されない場合もしくはIPアドレスを更新したい場合
①［解放］をクリックします。
②［すべて書き換え］をクリックします。

■本製品のログイン名(ユーザー名)、パスワードを変更したい

本製品のログイン名(ユーザー名)、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　管理者ログイン名、管理者ログインパスワードにログイン名と新しいパスワードを入力して［更新］ボタンをクリックします。

ログイン名およびパスワードで空白を設定すると、認証を行わずに設定ユーティリティーにアクセスすることができます。

■最新のファームウェアを入手してアップデートしたい

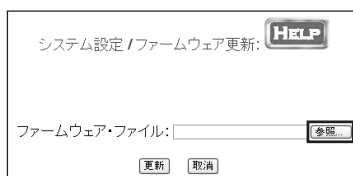
本製品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは当社のホームページ(http://www.corega.co.jp/)から入手してください。

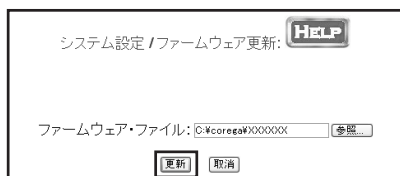
- **更新するファームウェアのバージョンによっては、更新前のお客様が設定されたデータが反映できない場合があります。**
- **ファームウェアをアップデートする前に、本製品の設定内容をメモしておいてください。**
- **ファームウェアをアップデート中は、他の操作を行ったり、本製品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本製品の故障の原因となる場合があります。**

ここでは例として「C:¥corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイルを保存した場合で説明します。

1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　「ファームウェア更新」をクリックします。

3　［参照］ボタンをクリックします。

4　「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、［開く］ボタンをクリックします。

5　パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから［更新］ボタンをクリックします。

6　次のダイアログボックスが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。本製品前面の「Self Test」LEDが点灯し、ファームウェアの更新処理が開始されます。

7　本製品前面の「Self test」LEDが消灯していることを確認します。

8　しばらくすると画面がトップのページに戻ります。

9　Initスイッチを使って本製品を再起動してください。詳しくは「本製品を再起動する」(P.79)をご覧ください。

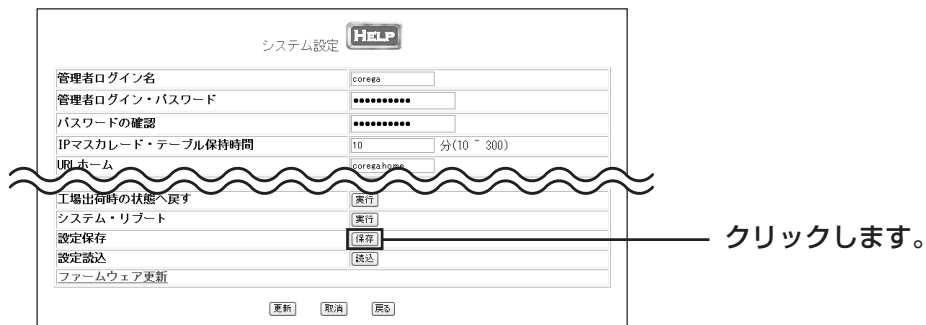
以上で、ファームウェアの更新は終了です。

■本製品の設定のバックアップを取る、元に戻す

現在の設定内容をバックアップし、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して、設定を元に戻すことができます。

●バックアップを取る

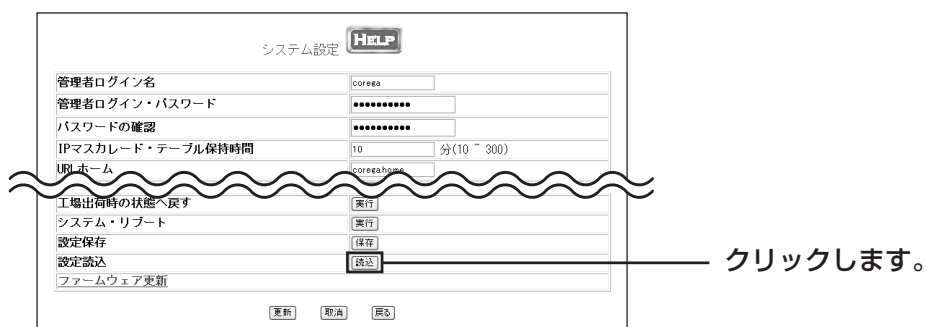
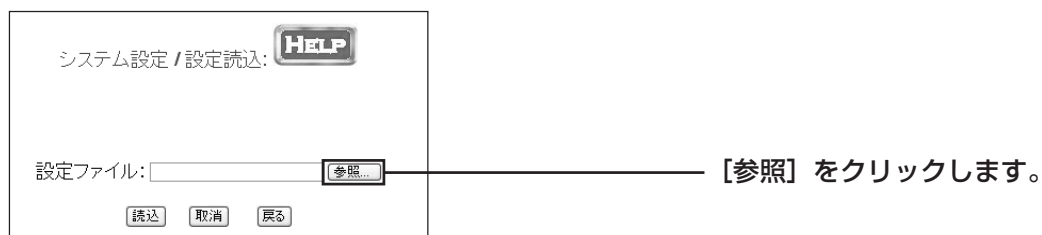
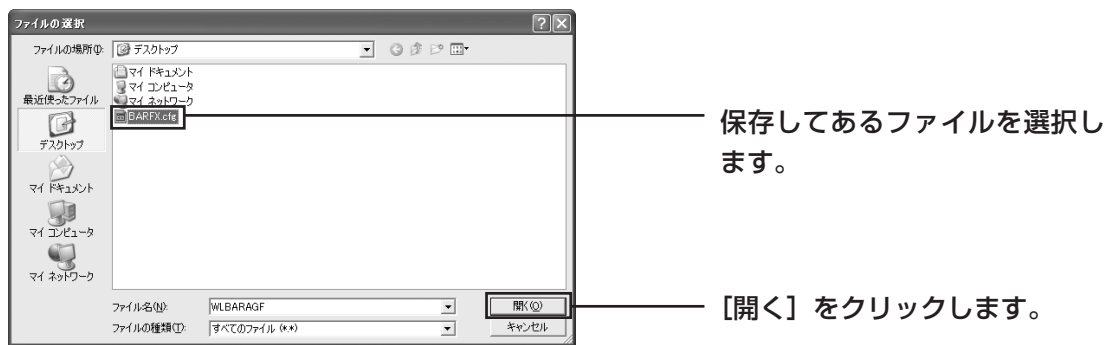
1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面表示させます。

2　設定保存の[保存]ボタンをクリックします。

3　「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されたら［保存］をクリックします。

4　「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、保存先を指定して［保存］をクリックします。

●元に戻す

1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　設定読込の［読込］ボタンをクリックします。

3　設定ファイル画面が表示されたら、[参照] ボタンをクリックします。

４　前ページ「本製品の設定のバックアップを取る」で保存したファイルを選択して、［開く］ボタンをクリックします。

４　［読込］ボタンをクリックします。

以上で、本製品を元に戻すことができました。

■本製品を再起動（システム･リブート）する

本製品のシステムを再起動します。設定を変更した場合には、再起動して設定内容を反映させてください。「ファームウェアのアップデート」「工場出荷時の状態に戻す」とは異なりますのでご注意ください。
再起動には、次の２つの方法があります。

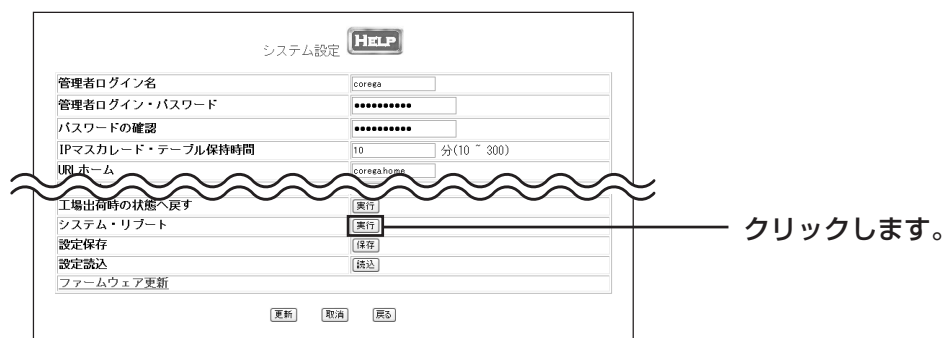
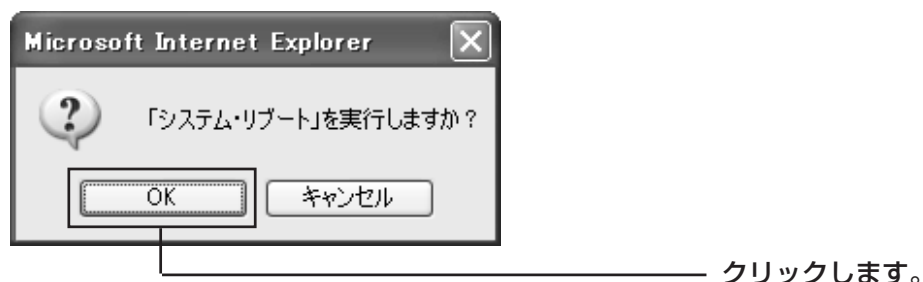
● Init スイッチを使う

1　本製品の電源が入っている状態で、ゼムクリップなど堅くて先の細いものを使用し、本製品背面にある Init スイッチを押して、すぐに離します。

2　「LAN」LED が一度消え、再び点灯したら、再起動の完了です。

●設定ユーティリティーを使う

1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　システム・リブートの［実行］ボタンをクリックします。

3　「システム・リブートを実行しますか?」と表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。

「LAN」LED が一度消え、再び点灯したら、再起動の完了です。

■本製品を工場出荷時の状態に戻す

本製品を工場出荷時の状態に戻すと今まで設定した情報が初期値になります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり「本製品の設定のバックアップを取る、元に戻す」(P.77) をして、後で再設定できるようにしておいてください。
工場出荷時の状態に戻すには、次の２つの方法があります。

● Init スイッチを使う

1　本製品の電源がオンの状態で、背面のInitスイッチをゼムクリップなど堅くて細いもので押し続けます。

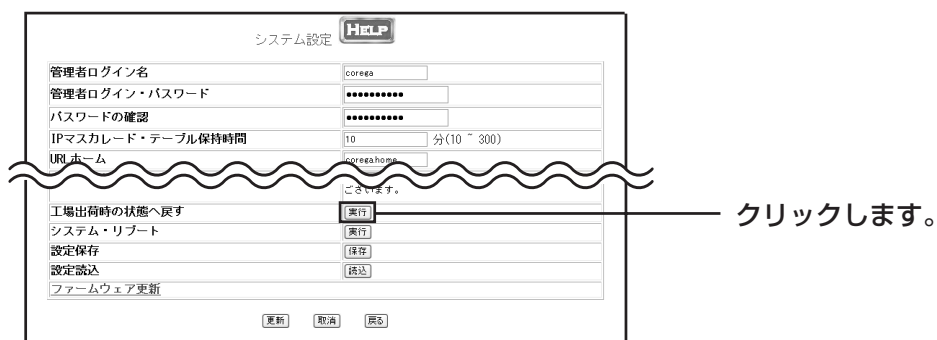
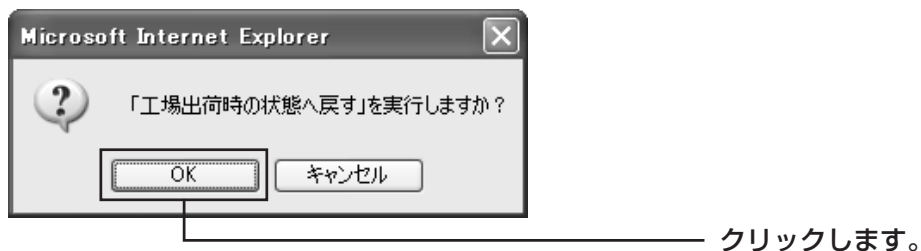
2　「Self Test」LED が点滅した後、点灯に変わります。

3　「Self Test」LED が消灯したら、Init スイッチを離します。

以上で「本製品を工場出荷状態に戻す」は完了です。

●設定ユーティリティーを使う

1　設定ユーティリティーを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　「工場出荷時の状態へ戻す」の［実行］ボタンをクリックします。

3　「工場出荷時の状態に戻す」を実行しますか? と表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。

「処理しました」と表示されますので、「完了」をクリックします。以上で「本製品を工場出荷状態に戻す」は完了です。

コレガのホームページの情報を活用する

コレガのホームページでは、お客様からのよくあるお問い合わせ情報やネットワークの一般知識を分かりやすく解説しているページを公開中です。困っていることを解決するヒントになります。

コレガホームページ　http://www.corega.co.jp/

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダーやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、CATV/ADSL モデムに直接接続するネットワーク機器（本製品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダーに対して事前申請してください。
本製品の WAN 側の MAC アドレスは本体底面に記入されています。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
・本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

2004 年４月　初版
2004 年７月　第二版